



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2016 : 年次記録 : 持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献する高等教育のあり方
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65308
Type	report
File Information	chapter-2.pdf,



2. 開催行事のウェブサイト

国際機関情報の探し方セミナー:

SDGs(持続可能な開発目標)の現在地 - 統計で知る



行事内容

開催日時 2016年10月12、14、18、20、24、26日(計6回) 18:30~19:30 **(終了しました)**

主催者 北海道大学附属図書館(国連寄託図書館)

会場 附属図書館 本館 リテラシールーム

言語: 日本語 **対象:** 一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要 2016年から国連の新しい開発目標であるSDGs(持続可能な開発目標)が始まりました。SDGsには17の目標、169のターゲット、230の指標があります。指標の多くは統計として無料のWebツールで入手可能です。

このセミナーでは、これらの統計データの入手方法を実習形式でご紹介します。

SDGsの達成度の探し方を知ること、グローバル社会をより深く見つめることにもつながるはずです。ぜひご参加ください。

ポスター

(画像をクリックすると、詳細がご覧になれます。)

北海道大学側 の実施責任者	附属図書館 利用支援課 利用支援課長 樋口秀樹
事前申し込み	必要（以下URL、附属図書館Webサイト内の申込フォームより、開催日の前日15時まで）
参加費	無料
問い合わせ先	北海道大学附属図書館（国連寄託図書館） 細井 真弓美 TEL: 011-706-2973 E-mail: cref[at]lib.hokudai.ac.jp（※[at]をアットマークに変えて送信ください）
URL	https://www.lib.hokudai.ac.jp/2016/09/20/40924/#application

実施報告

附属図書館は、国連寄託図書館として国連をはじめとする国際機関の資料・情報の探し方セミナーを年2回、不定期に開催しています。この秋は、「SDGs（持続可能な開発目標）の現在地-統計で知る」と題して、今年から始まった開発目標であるSDGsをテーマに実施しました。

SDGsには17の目標、169のターゲット、230の指標があります。指標の多くは統計として無料のWebツールで入手可能です。今回のセミナーでは、これらの統計データの入手方法を実習形式でご紹介することで、SDGsの達成度を各参加者が自ら深く知ることを目的としました。

セミナーでは、あらかじめ用意しておいた20個のSDGsの指標のうち、参加者の多数決によって実習を行なうものを選びました。実習をしないものについても、対応する統計のWebツールと、その利用方法を示した資料を配布しています。

参加者は、本学の学生20名と一般市民2名でした。セミナー終了後に実施したアンケートでは、「SDGsに関するデータを細かく検索する方法を学べ、たいへん有意義だった」、「手を動かしながらの講義だったのでよく理解できた」との回答がみられました。当日の資料についてはHUSCAP（北海道大学学術成果コレクション）に掲載しています。（HUSCAP「国際機関情報の探し方セミナー」：<http://hdl.handle.net/2115/63797>）



セミナーで実習を行う参加者の様子

国際シンポジウム 環境と健康領域における持続可能な開発目標(SDGs)



行事内容

開催日時 2016年10月17日(月) 13:30～16:00 (受付開始 13:00) **(終了しました)**

主催者 環境健康科学研究教育センター

共催 保健科学研究院、文学研究科、地球環境科学研究院

会場 学術交流会館(小講堂)

言語: 日本語・英語(同時通訳あり) **対象:** 専門家・一般市民・大学生・院生

行事概要 国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)の達成には、すべての国々で、豊かさを追求しながら地球を守るための行動が求められています。

本シンポジウムでは、特に環境と健康に関係して、安全な水環境、タバココントロール、有害物質の排除、母児の健康などの重要な課題をテーマに、危険な環境要因を削減し、健康な社会を創造するための研究や活動を取り上げます。

【プログラム】

HOKKAIDO UNIVERSITY
Center for Environmental and Health Sciences
北海道大学 環境健康科学研究教育センター
WHO 環境化学物質による健康障害の予防に関する研究協力センター
指定1周年記念 国際シンポジウム

**環境と健康領域における
持続可能な開発目標 (SDGs)**
2016年10月17日(月) 13:30～16:00 (13:00開場)
北海道大学 学術交流会館 小講堂 **参加費 無料**

国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) の達成には、すべての国々で、豊かさを追求しながら地球を守るための行動が求められています。本シンポジウムでは、特に環境と健康に関係して、安全な水環境、タバココントロール、有害物質の排除、母児の健康などの重要な課題をテーマに、危険な環境要因を削減し、健康な社会を創造するための研究や活動を取り上げます。

◆ 司会
安達 真由美 (北海道大学 大学院文学研究科 環境健康科学研究教育センター) / 荒本 敦子 (北海道大学 環境健康科学研究教育センター)

◆ 開会の辞
小笠原 克彦 (北海道大学 保健科学研究科 環境健康科学研究教育センター)

◆ 活動報告
岸 玲子 (WHO 環境化学物質による健康障害の予防に関する研究協力センター 兼 北海道大学 環境健康科学研究教育センター)
「WHO研究協力センターとして1年余りの活動を紹介」

◆ 講演 (同時通訳あり)
Romeo R. Quizon (College of Public Health, University of the Philippines)
「Improving Water Quality and Chemical Management in the Philippines: Experiences from the UP College of Public Health」

◆ 稲葉 洋平 (国立保健医療科学院/WHO とばい製品の成分試験に関する研究協力センター)
「ばい煙の規制に関する世界保健機関(WHO)と日本における取り組み」

◆ 宮下 ちひろ (北海道大学 環境健康科学研究教育センター)
「化学物質による母児への影響」

◆ 田中 俊逸 (北海道大学 大学院理学部地球惑星科学専攻 環境健康科学研究教育センター)
「汚染物質除去のための新規吸着剤の開発」

◆ 申し込み・問い合わせ
北海道大学 環境健康科学研究教育センター 総務・広報
TEL 011-706-4746 / FAX 011-706-4725 / E-mail info@cehs.hokudai.ac.jp
URL: <http://sustain.osa.hokudai.ac.jp/ev/2016/gs/cehs/>
申込受付: TEL 011-706-4746 / FAX 011-706-4725 / E-mail: info@cehs.hokudai.ac.jp
会場: 北海道大学学術交流会館(小講堂) 学術交流会館(小講堂) 学術交流会館(小講堂)

◆ 会場
学術交流会館(小講堂)

北海道大学側
の実施責任者

環境健康科学研究教育センター 教授 小笠原克彦

事前申し込み 必要(※申し込み受付は終了しました)

参加費 無料

問い合わせ先 環境健康科学研究教育センター

准教授 荒木 敦子

TEL: 011-706-4748

E-mail: AAraki[at]cehs.hokudai.ac.jp

(※[at]をアットマークに変えて送信ください)

URL <http://www.cehs.hokudai.ac.jp>

実施報告

本シンポジウムでは、国連が定める「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、特に環境と健康に関係して、安全な水環境、タバココントロール、有害物質の排除、母児の健康などの重要な課題をテーマに、危険な環境要因を削減し、健康な社会を創造するための研究や活動を取り上げた4つの講演を行いました。

フィリピン大学のRomeo Quizon 公衆衛生学部長からは、「フィリピンにおける水質と化学物質管理の改善に向けたフィリピン大学公衆衛生学部の貢献」、国立保健医療科学院/WHOたばこ製品の成分規制に関する研究協力センターの稲葉 洋平 特命上席主任研究官からは、「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約と日本におけるたばこ対策」という題目で、SDGs達成に向けた活動について講演しました。

引き続いて、本センターの宮下 ちひろ 特任准教授より、「環境化学物質による母児への健康影響」、北海道大学大学院地球環境科学研究院の田中 俊逸 教授からは、「汚染物質除去のための新規吸着剤の開発」について、それぞれの研究が人々の健康や環境改善にどう役立つかについて、発表しました。

本シンポジウム中では、参加した市民や学生から演者への質疑応答も行われました。

本センターは、WHOCCのひとつとして世界の人々と協力し、SDGsに沿って進んでいきます。また、環境と健康に関する様々な課題に取り組むと共に、市民講演会や、研究成果の発表をできるだけ多く実施していく予定です。



講演者・関係者の集合写真



稲葉特命上席主任研究の講演の様子



講演会 超高齢社会を迎えて ―感性工学の果たす役割―

行事内容

開催日時	2016年10月20日(木) 18:30 ~ 20:30 (受付開始 18:00) (終了しました)
主催者	工学研究院 人間機械システムデザイン部門 インテリジェントデザイン研究室
共催	日本感性工学会北海道支部, 札幌市立大学デザイン学部情報プロダクト研究室
会場	学術交流会館(第3会議室)
言語: 日本語(通訳なし)	対象: 一般市民・大学生・院生

行事概要 現在、生活者における高齢者の割合は人口の4人に1人であり、今後の高齢者の割合は増加の一途をたどるとの予測があります。

こうした中で、生活環境でのモノづくり、コトづくりの重要性が「高齢者に配慮する」という観点から高まることは言うまでもありません。

本企画は、世界で最も早く超高齢社会を迎えた日本の現状を理解するため、人間の豊かな暮らしを支える感性工学の分野からアプローチする講演会です。

「超高齢社会とは何か」からはじめ、「高齢者と家電製品・サイン」、「ユニバーサルデザインと高齢者」などについて参加者とともに語り合うことで、超高齢社会における理解が高まり、超高齢社会における様々な課題が見つかることを期待します。

北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2016 行事
本企画は世界で最も早く超高齢社会を迎えた日本の現状を理解するため、人間の豊かな暮らしを支える感性工学の分野からアプローチする講演会です。

講演会

企画責任者
北海道大学工学研究院 横山浩一 教授

超高齢社会を迎えて 感性工学の果たす役割

- 超高齢社会の現状
札幌市立大学 社会学部地域社会学科 森田志津子
- 高齢者のもの認識の特性
北海道大学工学研究院 李美蘭
- デザインでできる高齢者への配慮
札幌市立大学 デザイン学部 横山浩一 教授

開催日時 2016年10月20日(木) 18:30~20:30 (受付開始 18:00)
会場 北海道大学学術交流会館(第3会議室)
対象 一般市民・大学生・大学院生
参加費 無料(事前申込不要)

主催 北海道大学工学研究院 人間機械システムデザイン部門 インテリジェントデザイン研究室
共催 日本感性工学会 北海道支部、札幌市立大学 デザイン学部 情報プロダクト研究室
問い合わせ 工学研究院 人間機械システムデザイン部門(李美蘭) TEL: 011-746-6696 E-mail: hnt@engineering.hokudai.ac.jp

北海道大学側 の実施責任者	工学研究院 人間機械システムデザイン部門 特任教授 成田吉弘
事前申し込み	「問い合わせ先」に、お名前・年齢を記載したメールをお送り頂くことで事前申し込みができます。（当日会場へ直接お越し頂いても受付します。）
参加費	無料
問い合わせ先	工学研究院 人間機械システムデザイン部門 助教 李 美龍 TEL: 011-706-6416 E-mail: leemiyong [at] eng.hokudai.ac.jp （※[at]をアットマークに変えて送信ください）
URL	http://labs.eng.hokudai.ac.jp/labo/intelligent_design/

実施報告

現在、生活者における高齢者の割合は人口の4人に1人であり、高齢者の割合が今後も増加の一途をたどることは確実です。この状況の中で、生活環境でのモノづくり、コトづくりの重要性が「高齢者に配慮する」という観点から高まることは言うまでもありません。本企画は、人間の豊かな暮らしを支える感性工学の分野から、世界で最も早く超高齢社会を迎えた日本の現状を理解し、超高齢社会における様々な課題を見つけ出すことを目的としました。

本講演会では3名の講師を招いて、超高齢社会に関する全般的な説明から、高齢者に関する感性工学的理解、また感性工学と学問的関連が深いデザイン分野の事例について講演してもらいました。

具体的には、講演1で、さらなる高齢化の進展や高齢者世帯の状況、介護保険制度の概要と制度の変容、また高齢者の住まいと在宅生活の困難など、日本における「超高齢社会の現状」についてを紹介してもらいました。続いて講演2では、感性工学の定義から、感性工学分野で行われている高齢社会に関する研究の紹介や高齢者の認識の特性について感性工学的観点で解説してもらいました。講演3では、高齢社会に対するデザイン分野の研究成果や高齢者によるデザイン評価など、超高齢社会のためのより具体的な事例を紹介してもらいました。講演後は参加者との質疑応答を通して、超高齢社会における理解を高めることができました。

開催日はあいにく10月の初雪が降った悪天候の影響もあり、参加者は14名で多くはありませんでしたが、講演内容に関する関心は非常に高く密度の高い意見交換ができました。今後は、本講演会で指摘された課題を検討し、実際の生活に反映するための試みを感性工学分野はもちろん、関連分野と連携して探っていきます。



開会あいさつを述べる成田教授



講演に熱心に聴き入る参加者の様子

セミナー 変貌する北極域とアジア

～北極海航路とアジア：欧州とアジアの研究者による学際的研究の動向～



行事内容

開催日時	2016年10月26日（水）10:00～16:30（受付開始 9:30）（終了しました）
主催者	北海道大学北極域研究センター、リーズ大学東アジア研究所、北海道大学GI-CoRE北極域研究グローバルステーション
後援	（一社）寒地港湾技術研究センター、北海道経済同友会
会場	創成研究機構（10:00～12:00）、遠友学舎（14:00～16:30）
言語	英語（逐次通訳あり）
対象	専門家・一般市民・大学生・院生

行事概要 北極海航路の長期的な活用は、多くの環境的、経済的、地政学的、気候的、社会的、ならびに国家政策的な要因に強く由来しており、学際的・多面的視点から考えることが必要となっています。

本セミナーは、アジア・北米・欧州の多様な研究者が協働し、前記のような特性をもつ北極海航路に関して、アジア地域の政策ならびにその背景を中心とした研究成果を紹介し、研究の社会的実装をはかると同時に、参加者からの反応を今後の研究にフィードバックすることを企図しています。

午前のセミナーは専門家を対象に英語で開催し、発表とディスカッションを実施予定です。

午後のセミナーは、より一般の参加者を想定し、研究成果の紹介を主体に日本語の逐次通訳で提供し、質疑の時間も設けます。

開催セミナー
アジアと北極海航路

～変貌する北極域とアジア、欧州とアジア研究者による学際的研究の動向～

主催：北海道大学 東アジア政治経済研究所、北海道大学 北極域研究センター、
北海道大学 GI-CoRE 北極域研究グローバルステーション

後援：（一社）寒地港湾技術研究センター、北海道経済同友会

http://open.sis.hokudai.ac.jp/seminar/

専門セッション 10月26日 10:00-12:00
北海道大学 創成研究機構 3F 401号室（401号室）
会場は英語
10月26日 14:00-16:30
北海道大学 遠友学舎 3F 301号室

北極海航路の長期的な活用は、多くの環境的、経済的、地政学的、気候的、社会的、ならびに国家政策的な要因に強く由来しており、学際的・多面的視点から考えることが必要となっています。

本セミナーは、アジア・北米・欧州の多様な研究者が協働し、前記のような特性をもつ北極海航路に関して、アジア地域の政策ならびにその背景を中心とした研究成果を紹介し、研究の社会的実装をはかると同時に、参加者からの反応を今後の研究にフィードバックすることを企図しています。

午前のセミナーは専門家を対象に英語で開催し、発表とディスカッションを実施予定です。

午後のセミナーは、より一般の参加者を想定し、研究成果の紹介を主体に日本語の逐次通訳で提供し、質疑の時間も設けます。

本日は、北海道大学サステナビリティ・ウィーク2016の最終日です。シンポジウム、パネルディスカッション、セミナー、展示、映画、中絶の映像からなる研究チームによる、政策提言、社会実装、環境、気候、資源、経済などの研究の成果をスクリーンで共有しています。会場、アジア、北極域の研究者の成果を共有するものです。お申し込みは、http://open.sis.hokudai.ac.jp/seminar/

お問い合わせ先：http://open.sis.hokudai.ac.jp/seminar/

① アジアにおける、北極海航路の環境・経済・社会・政治に関する学際的研究の動向を、
② 北極海航路による環境影響と社会・経済・政治に関する学際的研究の動向を、
③ 北極海航路に関する学際的研究の動向に関する学際的研究の動向を、
④ 北極海航路に関する、政策提言や社会実装に関する学際的研究の動向を、
⑤ 学際的研究の動向に関する学際的研究の動向を、

北海道大学側 の実施責任者	北極域研究センター 教授 大塚夏彦
事前申し込み	必要(申込者を優先します)
参加費	無料
問い合わせ先	北海道大学北極域研究センター 大塚夏彦 TEL: 011-706-9625 E-mail: natsuhiko.otsuka[at]arc.hokudai.ac.jp (※[at]を@に変えて送信ください)
URL	http://asiachangingarctic.com/asia-nsr

実施報告

本国際セミナーは、英国リーズ大学 デント教授を代表とする研究プロジェクト、『北極海航路とアジア』の研究成果を広く社会に紹介することを目的に開催したものです。このプロジェクトは、英国・フィンランド・スウェーデン・ノルウェー・インド・日本・韓国・中国の研究者による、政治・経済・海事・地政学・環境分野にわたる学際的ネットワークのもとで進められています。

今日、北極海航路の活用に関しては、環境的、経済的、地政学的、社会的、ならびに国家政策的な要因に強く由来しながら、いかに持続的に実現するかが重要な課題となっています。そこで本セミナーでは、北極海航路に関わるインフラ投資、経済インパクト、海運分野の政策動向、リスクマネジメント、展望などに関する研究者からの講演を、専門家や研究者向けのワークショップと学生や一般市民向けセミナーの2部構成で開催しました。

専門家向けワークショップでは、研究者・学生主体に17名が参加、一般市民向けセミナーには産官学あわせて37名が参加しました。いずれにおいても、多くの質問・コメントが参加者から寄せられ、予定時間を超えて質疑が実施されました。特に一般市民向けセミナーのあと、複数の参加者から、『今回のセミナーによって、北極海航路に関する欧州やアジア各国の多様な視点を知ることができて有意義であった』との感想を得ることができました。

北極域研究センターでは、今後も産・官ならびに一般市民を対象として北極研究の情報発信および共同での活動を展開し、北極に関わる新しい研究領域および事業機会の創出に取り組む計画です。



ワークショップの様子



公開セミナーの様子

北大×JICA連携企画 青年海外協力隊トークイベント

～持続可能な社会をつくる日本のボランティア～



行事内容

開催日時	2016年10月27日（木）18:15～19:30（受付開始 18:00）（終了しました）
主催者	独立行政法人 国際協力機構 北海道国際センター（札幌）
共催	北海道大学国際連携機構
会場	北海道大学国際連携機構
言語: 日本語（通訳なし）	対象: 一般市民・大学生・院生・高校生
行事概要	青年海外協力隊として開発途上国の教育現場に携わってきたJICAボランティアが、自分の目を見て、耳で聞いた2年間についてお話します。 また、その経験を今後どのように日本の教育・社会に還元できるのか、開発教育の視点からみなさんと考えます。協力隊に興味のある方、国際協力に関わりたい方、ぜひご参加下さい。
北海道大学側の実施責任者	国際部国際連携課 国際協力マネージャー 榎本宏
事前申し込み	不要（直接会場へお越し下さい）
参加費	無料
問い合わせ先	JICA北海道（札幌）市民参加協力課 野々垣 真実 TEL: 011-866-8421 E-mail: hkictp[at]jica.go.jp （※[at]をアットマークに変えて送信ください）
URL	http://www.jica.go.jp/sapporo/enterprise/volunteer/index.html

実施報告

持続可能な発展に資する海外ボランティアとして、青年海外協力隊の事業説明および北海道大学大学院に在籍する帰国隊員の報告会を行いました。

青年海外協力隊の事業説明では、ODA（政府開発援助）とは何か、また日本が国際協力を行う必要性から、実際に青年海外協力隊に参加するにあたってどういった制度があるのかを、JICAボランティア事業担当者が講演しました。

帰国報告では、北海道大学在学中に青年海外協力隊に参加し、ネパールにてコミュニティ開発という職種に従事した現役大学院生の隊員が自身の体験談を語りました。

青年海外協力隊の活動期間は2年であり、決して大きなことが出来るわけではありませんが、現地に溶け込み、現地のニーズを把握し、本当に現地に必要なものを現地のリソースの中から見つけ出し繋げていくことが持続可能な発展において大切なことだと、参加者と共有することが出来ました。



帰国報告の様子



第10回応用倫理国際会議 — 応用倫理学の過去・現在・未来 —

行事内容

開催日時 2016年10月28日(金)～ 10月30日(日) **(終了しました)**

主催者 応用倫理研究教育センター

会場 人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)409室

言語: 英語 (通訳なし) **対象:** 専門家・大学生・院生

行事概要 今年で通算10回目を迎える本会議は、北海道大学大学院文学研究科・応用倫理研究教育センターが、現代の応用倫理学領域における諸問題を国際的な水準を満たすレベルで研究・学術交流を推進することを目的として継続的に開催している、当該研究領域において国内唯一の国際会議です。

第10回となる今年は、海外より4名の基調講演者を招聘し、基調講演ないし全体会議を開催予定です。

また、国内外の研究者に応用倫理研究領域における発表募集を呼びかけ、研究テーマごとに発表セッションを設けて、一般発表を行います。

特に国内外の若手研究者や大学院生の参加を広く呼びかけており、国際的な通用力を持つ研究者を養成するとともに、応用倫理研究分野全般について、研究能力のレベルアップを図ることも大きな目的の一つです。

北海道大学大学院文学研究科・応用倫理研究教育センター
第10回 応用倫理国際会議
 会場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟(W棟)
 日時：2016年10月28日(金)～30日(日)

**応用倫理学の
過去・現在・未来**

招待講演者
 ルース・チャドウィック
 (マンチェスター大学)
 マイケル・デイヴィス
 (イリノイ工科大学)
 ピーター・ストーン
 (ニューキャッスル大学)
 スティーブン・ウォード
 (ブリティッシュコロンビア大学)

RUTH CHADWICK
 (Manchester)
 MICHAEL DAVIS
 (Illinois Institute of Technology)
 PETER G. STONE
 (Newcastle)
 STEPHEN J.A. WARD
 (British Columbia)

**THE PAST, PRESENT AND FUTURE
OF APPLIED ETHICS**

会議の使用言語は英語です。
参加は無料ですが参加登録が必要です。最新のプログラム・登録状況・詳細はセンターウェブページをご覧ください。

CAEP
2016年10月28日(金)～30日(日) 会場：北海道大学 文学研究科 応用倫理研究教育センター (W棟) 409室
 〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目 北海道大学文学研究科 応用倫理研究教育センター (CAEP)
<http://ethics.let.hokudai.ac.jp/> Tel: 011-226-4288 E-mail: caep@eth.hokudai.ac.jp

北海道大学側
の実施責任者

応用倫理研究教育センター 准教授 眞嶋俊造

事前申し込み 不要（直接会場へお越し下さい）

参加費 無料

問い合わせ先 応用倫理研究教育センター

TEL: 011-706-4088

E-mail: caep[at]let.hokudai.ac.jp

（※[at]をアットマークに変えて送信ください）

URL <http://ethics.let.hokudai.ac.jp/>

実施報告

本行事は、第10回応用倫理国際会議（2016年10月28日～30日）にて、ニューカッスル大学のピーター・ストーン教授を含む4名の全体講演、4つのワークショップと59件の一般発表を行いました。

応用倫理国際会議は2007年に始まり、2008年より毎年行って参りました。今回の会議のテーマは「応用倫理学の過去・現在・未来」でした。ストーン教授は文化遺産保護の研究や教育における世界的権威であり、サステナビリティの倫理についての研究の第一人者です。ストーン教授の講演は ‘Ethical Issues Relating to the Protection of Cultural Property and Cultural Heritage During Armed Conflict’ という題名でした。武力紛争下において犠牲になるのは人々だけではなく、他の動物や自然や環境も影響を受けますが、文化遺産や文化財も例外ではないことを私たちに強く自覚させ、文化遺産や文化財の保護や回復・修復に向けた努力を強く動機付ける内容でした。

本講演は、武力紛争の際の文化財の保護に関する条約（1954ハーグ条約）で定められたブルーシールドの活動に焦点をあて、人類共通の遺産であり、未来世代に受け継ぐべき文化遺産や文化財が戦闘によって付随的に破壊されるだけではなく、それ自体が直接の攻撃の標的になる場合やその破壊自体が目的になる場合、さらに文化財の略奪や密売に至るまでの武力紛争の事実と、それを回避・阻止することの重要性と実施する方法についての議論が展開されました。この点において、本講演はまさにサステナビリティウィークの行事としてふさわしいものであったと考えられます。

次年度以降においても、サステナビリティの倫理を応用倫理国際会議の主要なテーマのひとつとしていく基盤を作ることができました。



ピーター・ストーン教授による講演の様子



マイケル・デイビス教授による講演の様子

北大・地球研合同地球環境セミナー「篤農家」から地域社会と環境の未来を学ぶ



行事内容

開催日時 2016年10月28日（金）13:30～17:00（受付開始 13:00）（終了しました）

主催者 工学研究院、総合地球環境学研究所

共催 農学研究院、国際連携研究教育局食水土資源グローバルステーション

会場 農学研究院 食資源研究棟（F319セミナー室）

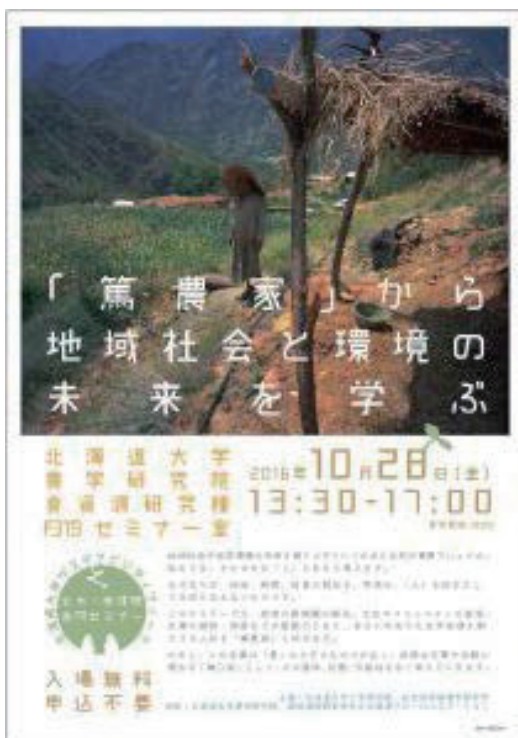
言語: 日本語（通訳なし） **対象:** 専門家・一般市民・大学生・院生

行事概要 地域や地球が抱える問題を解決し、未来を築くためには、様々なアプローチがあります。技術的アプローチ、経済的アプローチ、制度的アプローチ、あるいは哲学的アプローチなどです。いくつかのアプローチを複合的に組み合わせる場合もあります。どのようなアプローチをとるにせよ人材が重要な役割を果たすことに異論はないでしょう。

このセミナーの目的は、地域に根ざして農を営む人材を「篤農家」と呼び、その仕事や生き方から地域で育まれた知恵や未来社会のあり方を探ることにあります。

「篤農家」の魅力は農業を超えたところにもあります。バイタリティあふれる行動力と実践力、長年の経験から得た人生哲学なども「篤農家」が私たちの未来に大きなヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。このようが考え方を他の仕事にも当てはめ、「篤漁家」、「篤林家」、「篤〇家」といった多彩な地域の人材からも多くのことを学び取ることも重要です。

ポスター



（※画像をクリックすると、詳細がご覧になれます。）

北海道大学側 工学研究院 教授 船水尚行
の実施責任者

事前申し込み 不要(直接会場へお越しください)

参加費 無料

問い合わせ先 北海道大学大学院工学研究院

教授 船水 尚行

TEL: 011-706-6270

E-mail: funamizu[at]eng.hokudai.ac.jp

(※[at]をアットマークに変えて送信ください)

実施報告

『「篤農家」から地域社会と環境の未来を学ぶ』というセミナーを、機関連携プロジェクトを実施している北海道大学と総合地球環境学研究所の共催で行いました。総合地球環境学研究所と共催でサステナビリティ・ウィークでの行事を行うのは今回で3回目となります。

地域や地球が抱える問題を解決し、持続可能な未来を築くためには、多様な観点から地域を見ていく必要があります。例えば、技術的、経済的、制度的、哲学的観点を複合的に組み合わせていくのです。今回、「篤農家」に注目したのは、「篤農家」は地域に根ざして農を営む人たちであり、バイタリティあふれる行動力と実践力、長年の経験から得た人生哲学などをお持ちだからです。そして、持続可能な生活の実践者であると思います。すなわち、「篤農家」の方々は多様な観点を複合的に組み合わせ、それを実践しておられると思います。「篤農家」の魅力は農業を超えたところにもあります。「篤農家」が私たちの未来に大きなヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。

このような目的のもと、アラブ世界と日本の篤農家の比較についての話、西条野外学校の取り組み、水産増殖技術の開発と実践の3つの話題提供と議論を行いました。私たちは「篤農家」に限らず、「篤漁家」、「篤林家」、「篤〇家」といった地域に根差したリーダーから、多くのことを学びことができると思います。そのことを実感させる会合でした。



開会の挨拶をする船水尚行北海道大学工学
研究院教授・地球研教授



秋田県とサウジアラビアの篤農家について発
表する縄田浩志秋田大学教授

附属図書館(国連寄託図書館)企画 2Daysイベント(1日目) 法・図 共同ワークショップ

「世界のルール of 作り方・使い方-人権に関する国連諸機関の仕組みと情報の調べ方-」



行事内容

開催日時	2016年10月28日(金) 14:45～18:00(受付開始 14:30) (終了しました)
主催者	附属図書館、大学院法学研究科(附属高等法政教育研究センター、法学政治学資料センター)
会場	附属図書館 本館 大会議室
言語	日本語(通訳なし) 対象: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生
行事概要	日本において国連の広報活動を行う、国連広報センターの千葉 潔氏による「国連と人権、その資料」のガイダンスです。 第一部では、国連の人権諸機関やその最近の動きなど、国連の人権に対する取り組みに関する基礎知識を案内します。 第二部では、人権理事会や各種機関の文書構造と調べ方の実際を解説します。 第三部では、国連の人権に関するWebサイトやWebツールの概観と活用術を紹介します。 平和、開発を含め、あらゆる活動を結ぶ共通の糸とも言える人権という切り口から世界を見渡すための実践的なリテラシーが身につく企画です。



(※画像をクリックすると、詳細をご覧になれます。)

北海道大学側 附属図書館 利用支援課 利用支援課長 樋口秀樹
の実施責任者

事前申し込み 必要（※お申込み受付は終了しました。）

参加費 無料

問い合わせ先 北海道大学附属図書館

細井 真弓美

TEL: 011-706-2973

E-mail: cref[at]ib.hokudai.ac.jp

（※[at]をアットマークに変えて送信ください）

URL <http://www.iuris.hokudai.ac.jp/ad/event/20161028/>

実施報告

附属図書館が国連寄託図書館として開催した2Daysイベント、1日目の企画は、附属図書館・法学研究科共同ワークショップ「世界のルールづくり・使い方」第3回、「人権に関する国連諸機関の仕組みと情報の調べ方」です。本企画は、『サステナビリティ・ウィーク10 周年記念 国際シンポジウム』の関連企画でもあります。

今回の世界のルールづくり・使い方の内容は、国連広報センターで不定期に実施している国連資料ガイダンスの人権編にあたります。同センターから講師の千葉潔氏を招聘し、開催しました。

3部構成の第1部は、国連と人権の基礎知識でした。国連の各機関における人権への取り組みの進展、現在の国連の人権に関する文書の種類や出所、特に重要な文書などのレクチャーがありました。第2部は、国連と人権 情報資料／文書構造と調べ方の実際でした。参加者が2人1組になって、手元の国連資料のサンプルについて、識別のために付与されている文書記号を手がかりにして、どの機関が出したどのような文書なのかを解くワークショップを行いました。そして、第3部では、インターネット検索方法と様々な活用術でした。第1部、第2部で触れた国連文書をWebページから入手する手順などの解説がありました。

参加者は、本学の学生33名と一般市民5名でした。イベント終了後に実施したアンケートでは、「国連が人権に関してどのような種類の文書を出しているのか知れてよかった。」、「図書館とグローバルとサステナビリティがうまくみあわさったイベントだと感じた。」、「マスコミでの取材活動に大変有用な講義と思いました。ありがとうございました！」といった声が寄せられました。閉会後は、参加者が千葉氏に熱心に質問をする様子が見受けられました。

北海道大学附属図書館および法学研究科（附属高等法政教育研究センター、法学政治学資料センター）では、今後もテーマを変えての「世界のルールづくり・使い方」開催を予定しています。



文書情報を学ぶワークショップの様子



ウェブサイトでの調べ方を説明する千葉氏

附属図書館(国連寄託図書館)企画2Daysイベント(2日目)

市民セミナー&図書館ツアー「聞いて見て知る! 国連の活動と北大図書館」



行事内容

開催日時	2016年10月29日(土) 11:00~12:30 (終了しました)
主催者	附属図書館(国連寄託図書館)
共催	国連広報センター
後援	独立行政法人国際協力機構北海道国際センター(JICA 北海道)、公益財団法人札幌国際プラザ、札幌市、日本国際連合協会北海道本部、北海道
会場	附属図書館 本館
言語: 日本語(通訳なし)	対象: 一般市民・大学生・院生・高校生
行事概要	北海道大学附属図書館は国連寄託図書館に指定されています。本セミナーは、国連についてのレクチャーと図書館(本館)のツアーによって、国連の現状と国連寄託図書館の趣旨を知る市民向けセミナーです。 まずは、国連広報センターの千葉潔氏から、国連とその活動、そして、国連を知るうえで役に立つ資料などについてお話いただきます。 続いて、附属図書館のスタッフの案内で千葉氏のお話に関連した箇所を中心とした図書館ツアーを行います。 国連の活動全般を知り、北大図書館でより深く学ぶきっかけとなる企画です。

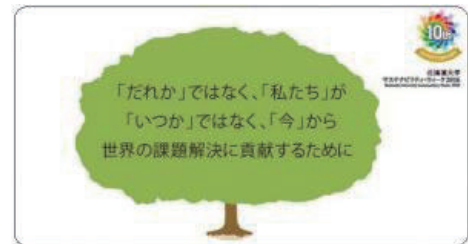


プログラム詳細、最新情報

「市民セミナー&図書館アー 聞いて見て知る！国連の活動と北大図書館」は、サステナビリティ・ウィーク10周年記念 国際シンポジウムの共催企画です。プログラム詳細、最新情報は[特設サイト](#)にて公開しています。

- ・ SW10周年記念 国際シンポジウム特設ウェブサイ

<http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sdgs/>



北海道大学側の実施責任者 附属図書館 利用支援課長 樋口秀樹

事前申し込み (※お申込み受付は終了しました。)

参加費 無料

問い合わせ先 北海道大学附属図書館(国連寄託図書館)

細井 真弓美

TEL: 011-706-2973

E-mail: [cref\[at\]ib.hokudai.ac.jp](mailto:cref[at]ib.hokudai.ac.jp)

(※[at]をアットマークに変えて送信ください)

URL <https://www.lib.hokudai.ac.jp/2016/09/08/40563/>

実施報告

附属図書館が国連寄託図書館として開催した2Daysイベントの2日目の企画は、市民セミナー＆図書館ツアー「聞いて見て知る！国連の活動と北大図書館」です。本企画は北海道大学サステナビリティ・ウィーク10周年記念国際シンポジウムの分科会でもあります。

前半は講師の国連広報センターの千葉潔氏から、国連広報センターの概要、国連の現状、国連の広報活動の実際、国連寄託図書館の趣旨などの講話がありました。国連は現在、著名人の起用等による親しみやすい動画を用いた広報活動に力を入れており、これらの動画の紹介も複数あり、国連の取り組みについて映像と音楽で楽しめる内容でした。

後半は、附属図書館スタッフによる千葉氏のお話を踏まえての図書館ツアーでした。国連などの国際機関の資料を集めた国際資料コーナーや、札幌農学校2期生であり国際連盟事務次長としても活躍した新渡戸稲造にゆかりの資料展示、地下の自動化書庫等の見学を行いました。新渡戸稲造の資料展示では、図書館の資料だけではなく、大学文書館の協力により、新渡戸稲造が国際連盟の便箋を使った書簡のレプリカも展示しました。

参加者は、本学の学生1名と一般市民37名でした。市民の中には高校生や親子連れの方も多く含まれていました。イベント終了後に実施したアンケートでは、「国連のことをたくさん聞ける機会はなかなかないので、とても良い講演で、自分にとって、とても興味がわく内容でした。」といった声が寄せられました。図書館ツアーの後、高校生をはじめとする参加者との間で活発な質疑応答が交わされました。

附属図書館(国連寄託図書館)では、今後も国連の資料の収集・提供に加えて、国連のアウトリーチ活動に寄与するような講演会やセミナーなどを実施する予定です。



千葉氏によるセミナーの様子



図書館ツアーの様子

SW10周年記念 国際シンポジウム

～持続可能な開発目標(SDGs)に貢献する高等教育のあり方～



行事内容

開催日時 2016年10月29日(土)10:30～19:30、30日(日)9:30～17:00 (終了しました)

主催者 北海道大学

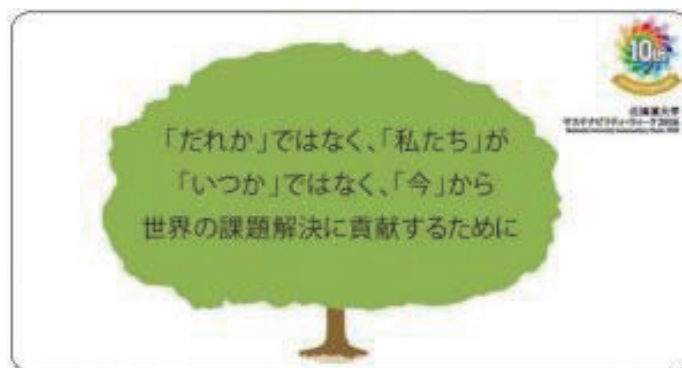
会場 学術交流会館

言語: 日本語・英語(一部、同時通訳あり)

対象: 専門家・一般市民・大学生・院生

行事概要 2007年に開始して以来、サステナビリティ・ウィークは2016年で10回目を迎えます。これを記念し、持続可能な社会の実現を目指して、教育研究ならびに産学官民連携に励む国内外の団体や機関と協働してシンポジウムを開催することにより、高等教育が果たしてきた役割の視認性を高めると共に、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた今後のあり方について多角的に議論します。

* プログラム詳細、最新情報はSW10周年記念 国際シンポジウム [特設サイト](http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sdgs/)にて公開しています。 <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sdgs/>



プログラム

10/29(土)

10:30～13:45 分科会1

10:30～12:30 総合博物館ツアー(1回目)

持続可能な開発を「クール」に考えよう!ー北極域展示室を通してー

(北極域研究センター)

11:00～12:30 市民セミナー＆図書館ツアー

「聞いて見て知る！国連の活動と北大図書館」（附属図書館）

11:30～13:30 総合博物館ツアー（2回目）

持続可能な開発を「クール」に考えよう！ー北極域展示室を通してー（北極域研究センター）

12:30～14:00 HESDフォーラム総会（※クローズド会議）

14:00～17:30 全体会

14:00～14:10 開催あいさつ

・北海道大学理事・副学長 上田 一郎

・文部科学省国際統括官付（日本ユネスコ国内委員会事務局）国際統括官補佐 鈴木規子

14:10～14:30 開催趣旨 ～サステナビリティ・ウィーク10年の歩み～

北海道大学理事・副学長 上田 一郎

14:30～15:15 招待講演 1 「SDGs達成のための高等教育の役割」

AASHE（米国の高等教育における「持続可能な発展」に向けた活動を促進する非営利団体）理事 キンバリー・D・スミス

15:15～16:00 招待講演 2

「リスク社会における不確実性を生きるための知識とは～チェルノブイリ後のドイツにおける市民の”方向性の知”に基づいて～」

フェリス女学院大学 准教授 高雄綾子

16:00～16:20 休憩

16:20～17:30 講演 「北海道大学におけるサステナビリティ教育の将来像」

・司会：北海道大学 教育学研究院長 小内透

・発表者：北海道大学副学長 山下正兼

・指定討論者：ソウル大学校師範大学長 Kim Chan-Jong

・指定討論者：東京大学 大学院教育学研究科 准教授 北村友人

・指定討論者：駐日スウェーデン大使館 科学・イノベーション部 Mats Engström

・指定討論者：駐日ノルウェー王国大使館 通商技術部・シニアアドバイザー 松本宏

17:30～18:30 交流会

10/30(日)

9:00 開場・受付開始

9:30～12:30 分科会 2

9:30～12:00 講演 1

「第10回HESDフォーラム：事例報告」(HESDフォーラム)

9:30～12:00 講演 2

「北欧とバルトの国々に学ぶサステナブルな高等教育の在り方」(北海道大学欧州ヘルシンキオフィス)

10:30～12:30 総合博物館ツアー（3回目）

持続可能な開発を「クール」に考えよう！ー北極域展示室を通してー（北極域研究センター）

12:15～14:30 分科会 3

12:15～13:45 学生ワークショップ 1

「大学生の挑戦！世界の目標を自分とつなげる」(環境省北海道環境パートナーシップオフィス北海道)

12:30～14:30 総合博物館ツアー（4回目）

持続可能な開発を「クール」に考えよう！ー北極域展示室を通してー（北極域研究センター）

12:15～13:45 対談

「SDGsへ貢献する高等教育のあり方について」(HESDフォーラム)

14:00～16:00 分科会 4

14:00～16:00 学生ワークショップ 2

「学生目線で考えよう！よりよい世界の未来を担う高等教育どうあるべき？」
(環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO)北海道)

14:00～16:00 総合博物館ツアー(5回目)

持続可能な開発を「クール」に考えよう！ー北極域展示室を通してー(北極域
研究センター)

14:00～16:00 講演会

「コンフリクトを超える知を生み出す学びー分断社会における和解の可能性
ー」(教育学研究院)

14:00～16:00 講演会

「文化遺産とSDGs ー失われた好機？ー」(応用倫理研究教育センター)

16:15～17:00 全体会

16:15～17:00 総括ディスカッション

「SDGsに貢献する高等教育のあり方」(北海道大学)

北海道大学側
の実施責任者 北海道大学理事・副学長 上田一郎

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました。)

参加費 無料

問い合わせ先 北海道大学サステナビリティ・ウィーク事務局

TEL: 011-706-8031

E-mail: sw1[at]oia.hokudai.ac.jp

([at] を@に置き換えて送信してください)

URL <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sdgs/>

実施報告

サステナビリティ・ウィークの10周年を記念して、10月29日(土)・30日(日)に学術交流会館にて国際シンポジウムを開催しました。世界規模で2030年までの達成を目指す国連「持続可能な開発目標(SDGs)」へ貢献する高等教育のあり方を議論すべく、214人が参加しました。

本シンポジウムは、サステナビリティ・ウィークの縮小版の形式を取りました。つまり、共通テーマの下でサステナビリティ・ウィーク実行委員会は全体会を開催し、学内の5つの組織が学外の団体と共催して9つの企画を分科会という位置付けで提供しました。

全体会は二部制とし、第一部は29日(土)に開催し、文部科学省 国際統括官付 国際統括官補佐 鈴木規子氏による挨拶の後、上田一郎理事がサステナビリティ・ウィーク10年の歩みを紹介しました。つづく二つの招待講演と、本学の「サステナビリティ教育検討プロジェクトチーム」による特別講演を通じて、参加者は今回のテーマについて理解を深めました。第二部は30日(日)に開催し、分科会からの報告を聞いた上で、SDGsに貢献する高等教育のあり方について参加者間で議論が行われました。

第一部における招待講演では、持続可能性を追求するための国連SDGsをはじめとする主要なイニシアチブが概説されました。その上で、アメリカとドイツで高等教育機関や研究者が関与した社会教育や市民教育の事例、課題、その発展可能性が、イニシアチブと関連づけて論じられました。特別講演は、小内透教育研究院長が進行しました。まず、山下副学長より、北海道大学総長へ提言する予定のサステナビリティ教育の推進方策案が示されました。その後、4人の指定討論者により、当概方策の特徴や課題、改善案が論じられました。北海道大学におけるサステナビリティ教育の定義と意義について、より明確化させることの必要性が強調されました。

第二部では、持続性に係る課題や教育のステイクホルダーごとに分かれて議論された内容が分科会の代表者から報告されました。その後、SDGsに貢献する人材育成に関わる教員や学生を支える大学の組織や制度のあり方について参加者間で議論を行いました。それにより、特に本学において継続的な議論を必要とする課題の方向性について示唆が得られました。

詳しくはシンポジウム特設ウェブサイトをご覧ください。 <http://sustain.oja.hokudai.ac.jp/sdgs/index.html>



開催主旨を述べる上田一郎 北海道大学理事・副学長



スミス氏による招待講演での質疑応答の様子

総合博物館ツアー 持続可能な開発を「クール」に考えよう！

ー北極域展示室を通してー



行事内容

開催日時 2016年10月29日(土)、30日(日) (終了しました)

主催者 北極域研究センター

会場 北海道大学総合博物館

言語: 日本語・英語(通訳なし)

対象: 一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要 この夏、北大総合博物館に新しく北極域研究センターの展示が設置されました。ここでは、北大北極域研究者の様々な研究アクティビティを紹介されています。

地球で最も変動の大きい環境、生態系、人々の暮らしや文化を知り「持続可能な開発」とは何か、私たちとどういう関係あるのか、そして何ができるかを一緒に考えてみましょう！

展示室では、人々の暮らし(北方の技術、政治・経済)、生態系(陸上・海棲動物、鳥類)、



陸の環境(シベリアとアラスカの環境と人との関係)、海と大気(海氷と生態系の変化、モデリング、衛星観測)、雪と氷(グリーンランドの氷河、北大の北極研究)、中谷宇吉郎教授の研究を紹介しています。

ホッキョクグマの剥製(本物)もあります！

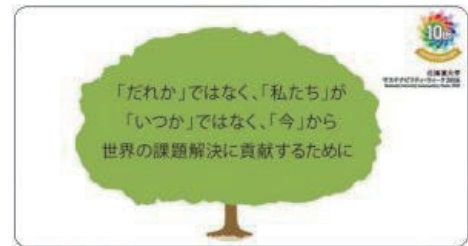
ツアー時刻

- ・ ツアー1回目 10/29(土) 10:30～12:30
- ・ ツアー2回目 10/29(土) 11:30～13:30
- ・ ツアー3回目 10/30(日) 10:30～12:30
- ・ ツアー4回目 10/30(日) 12:30～14:30
- ・ ツアー5回目 10/30(日) 14:00～16:00

SW10周年記念 国際シンポジウム 詳細情報

総合博物館ツアーは、『サステナビリティ・ウィーク10周年記念 国際シンポジウム』の共催企画です。シンポジウムのプログラム詳細、最新情報は[特設サイト](#)にて公開しています。

- ・ SW10周年記念 国際シンポジウムウェブサイト:<http://sustain.oja.hokudai.ac.jp/sdgs/>



北海道大学側の実施責任者 大学力強化推進本部 URAステーション URA 小俣友輝

事前申し込み 必要（※申し込み受付は終了しました。）

参加費 無料

問い合わせ先 大学力強化推進本部
URAステーション 小俣 友輝

TEL: 011-706-9595

E-mail: y-komata[at]cris.hokudai.ac.jp

（※[at]をアットマークに変えて送信ください）

URL <http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

実施報告

2016年7月にリニューアルオープンした北大総合博物館に、北極域研究センターの展示、『いま最も「クール」な研究』が新設されました。そこには北極域の人々の暮らし、陸や海・大気、グリーンランドの氷河に関する北大の研究、および中谷宇吉郎教授の研究について、解説パネルと展示物が設置されています。

総合博物館ツアー『持続可能な開発を「クール」に考えよう！ー北極域展示室を通してー』は、地球環境変動の影響を顕著に受ける北極域の課題や、研究成果を通じて「北極域や持続可能な開発目標と自分との関わり」、「持続可能な開発目標に対する高等教育機関の役割」について来場者とともに考えることを目的として実施しました。

本企画の対象者は「SW10周年記念 国際シンポジウム」の参加者やSWのwebサイトを通じて企画を知る国内外の幅広い層の方および博物館を訪問中の北極域に興味のある方でした。北極域をフィールドとする本学大学院生が、北極域の概要、それぞれの研究活動、持続可能な開発目標について解説し、アンケートを実施しました。

アンケート回答者は海外の方5名を含む、学生、市民、企業関係者、教育関係者／研究者等の32名でした。北極域に関しては97%以上が、持続可能な開発目標に関しては85%が「少し以上は関係ある」と回答しました。ときに質疑応答を交えつつ、北極域や地球規模で生じている様々な課題を、より自分たちに関係のある出来事と感じていただけたようです。

ガイドを務めた大学院生は、性別、年齢、国籍の異なる多様な参加者に対して、フィールドで使用する器具を実際に手に取って見せるなど工夫を凝らし、一般的にあまり馴染みのない課題の共有に熱心に取り組みました。

参加者からは「博物館の展示において、インタラクティブなガイドツアーは新鮮」との声も聞かれました。また本学の多様なアクティビティをより広く深く共有するための手段として、博物館展示を利用した専門家によるツアーは非常に効果的との印象を持ちました。

今後、国際連携機構、総合博物館とも継続的に連携し、互いに関係を発展させていきたいと思っています。



展示について説明する北大生とツアー参加者の様子



熱心に説明を聴くツアー参加者の様子



第10回HESDフォーラム in 北海道 事例報告会

行事内容

開催日時	2016年10月30日(日) 9:30～12:00 (終了しました)
主催者	HESDフォーラム
共催	北海道大学国際連携機構、北海道大学大学院教育学研究院
会場	学術交流会館 第一会議室
言語: 日本語	対象: 専門家・大学生・院生
行事概要	HESDフォーラムは、国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」に取り組む大学が、2007年に第1回大会を岩手大学にて開催後、自主的に集合し、立教大学、岡山大学、上智大学、徳島大学、京都大学、金沢大学、名古屋市立大学、琉球大学と開催してきました。ここ北海道大学での開催が、記念すべき第10回大会になります。

プログラム

9:30 開会(進行: 琉球大学 大島順子)

HESDフォーラムについて

(HESDフォーラム代表/立教大学 阿部 治)

【大学セッション】

9:35 『ESDキャンパスアジア・パシフィック・プログラムの成果と展望』

(北海道大学大学院教育学研究院 水野眞佐夫)

9:50 『大学の付置機関をととしたESD教育・研究の可能性ー立教大学ESD研究所の10年間の取り組みをととしてー』

(立教大学ESD研究所 阿部 治)

10:05 『現代GP「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」の報告とその後(改組²)～持続可能な地方発展に関する一考察～』

(徳島大学理工学部 三好徳和)

10:20『金沢大学におけるESDへの取り組み』

(金沢大学国際基幹教育院 鈴木克徳)

10:35『地(知)の拠点として取り組む琉球大学の事業の現状と課題』

(琉球大学観光産業科学部 大島順子)

10:50 休憩

【学生セッション】

11:00 琉球大学エコロジカルキャンパス学生委員会の活動

琉球大学(清水萌衣、宮城俊貴、用あかり)

11:15 北海道大学教育学部・大学院教育学院における双方向型短期留学プログラム

北海道大学(増田風雅、真鍋優志、田中真一郎)

11:30 総合討論

教員 & 学生

12:00 終了

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました。)

参加費 無料

実施報告

HESDフォーラムは、ESDに取り組む高等教育機関がその実践等に関する様々な情報交換を行い、ESDの質の向上を図ることを目的として2007年に設立されました。この度、第10回HESDフォーラムを北海道大学のサステナビリティ・ウィークに合わせて開催することができました。開催に際し、会場のご提供ならびに運営にご協力頂きました北海道大学サステナビリティ・ウィーク事務局の皆さまに厚く御礼申し上げます。

午前中の大学セッションでは、五つの大学より事例報告がありました。まず、北海道大学より「ESDキャンパス・アジアパシフィック・プログラム」の成果と展望についての報告があり、続いて、立教大学のESD研究所より、大学の附置機関を通したESD教育研究の可能性とESD研究所の10年間の取り組みについてレビュー頂きました。

次に、徳島大学より、2000年以降多数の大学が取り組んだ文部科学省の「現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)」の持続可能な社会につながる環境教育の推進について、徳島大学が採択を受けて実施したプログラムの内容と実施後の展開をお話し頂きました。

そして、金沢大学からは大学のESDの取り組みをお話し頂きました。金沢大学は、さまざまな変遷を経ながら、現在もESDの関連科目を共通教育のレベルで展開している好事例の一つだと思います。

最後に琉球大学より、文部科学省の展開する「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」という、地域の課題を解決するための事業について、現状と課題を発表頂きました。全体としては、各大学が文部科学省からの様々な補助事業を受け、展開してきた／している取り組みの現状と課題、今後の方向性について、具体的な事例に基づいて忌憚のない意見交換ができたと思います。

また、学生セッションとして、北海道大学と琉球大学の学生による発表の機会を設けました。琉球大学からは、「エコロジカルキャンパス学生委員会」の活動を率直に学生目線で話しました。ボランティアであると同時に、単位付与されるキャンパスの中での活動という点が、非常に特徴的だったと思います。北海道大学は、双方向型の短期留学プログラムについて、写真を基に発表して頂きました。

今までは大学教員や大学としての報告がほとんどでしたが、昨年度より学生セッションを設けました。大学側がある目的をもって行っているものを学生はどう受け取っているか、学生の目線をきちんと知らないと、一方的なやり方になるのではないかという反省もあったためです。今年も学生側の話が聞けたことは非常に良かったと思います。

今後も、各大学の全学教育としてESDをどのように継続することが期待されているか、あるいは望ましいのかということをざっくばらんに話し合うことができることを期待し、HESDフォーラムを継続していきたいと思います。今回の発表内容は、HESDフォーラムのウェブサイトでも公開されますので、事例の報告内容の詳細はぜひ後ほど確認して頂ければと思います。



大学セッションでの発表の様子



学生発表の様子

対談「SDGsへ貢献する高等教育のあり方について」



行事内容

開催日時	2016年10月30日(日) 12:15～13:45
主催者	HESDフォーラム
共催	北海道大学国際連携機構
会場	学術交流会館 第一会議室
言語: 日本語	対象: 専門家・大学生・院生
行事概要	HESDフォーラムは、国連「持続可能な開発のための教育の10年」に取り組む大学が、2007年に第1回大会を岩手大学にて開催後、自主的に集合し、ここ北海道大学にて開催が、記念すべき第10回大会になる。 今年はまた、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」が発効した年でもあり、ポストESDとして、今後高等教育機関がSDGsに対しどのようにかかわっていくべきか、あらかじめ募集した質問や意見を基に、対談形式にて講演を行う。その後、フリートーク的ディスカッションを行う。
スケジュール	
12:15 ～ 12:30	
開会並びにHESDフォーラム10年の歩みについて(紹介)	
12:30 ～ 13:15	
阿部治教授、鈴木教授との対談(事前意見聴取に関する応答を交えて)	
13:15 ～ 13:45	
会場参加者とのフリートークセッション	

講演者

講演者1



立教大学社会学部教授・ESD研究所長 阿部治

1955年新潟県生まれ。立教大学社会学部・同研究科教授、専門
は環境教育/ESD。現在、同大学ESD
含むアジア太平洋地域の環境教育/ESDのアクションリサーチを行
っている。前日本環境教育学会会長 (Former President, Japanese
Society of Environmental Education)

講演者2



金沢大学国際基幹教育院教授 環境保全センター長 鈴木克徳

環境省(環境庁)に在籍し、オゾン層保護、気候変動等の国際交
渉、国際環境協力等に従事。その間、国連アジア太平洋経済社
会委員会、世界銀行、日本環境衛生センター酸性雨研究センタ
ー、国際連合大学高等研究所(UNU-IAS)等の国際的機関に出
向し、活動。UNU-IAS時代には、UNESCOとともに、国連ESDの10年(DESD)の推進を図
り、DESD国際実施計画づくりなどを行う。また、ESD地域拠点(RCE)づくりを推進。現在、
金沢大学で、北陸におけるESD活動を推進している。

司会

徳島大学大学院理工学研究部 三好徳和

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました)

参加費 無料

実施報告

「SDGsへ貢献する高等教育のあり方について」という題にて、立教大学の阿部治先生、金沢大学の鈴木克徳先生に対談をしていただく予定であった。しかし、参加者が10余名であったため、両先生に話題提供していただき、フロアーからの質問に答える形として実施した。

簡単に内容をまとめると、まず、SDGsに関する前に、ESDに関し参加者全体での共通認識を作るためのディスカッションを行った。資本主義社会における競争至上主義から、お互いが分かち合いながら安全安心な社会を作るためにどのようにしなければならないのか。そのように価値観の変換を求めるものがESDである。

では、高等教育機関としてはどのように実施していくかが課題となる。体験プログラムで地域問題を理解するという観点からしたら、初等教育と高等教育では一見すると同じような中身かもしれない。しかしESDとしての中身は、深さが違う。高等教育では問題解決のための調査研究がなされる。

ただ、そうすると、ESDは専門教育と言うことになりはしないか。ESDとして、課題解決のための専門教育もある。しかし、ESDには、先に述べた、競争至上主義から、お互いが分かち合いながら安全安心な社会を作るために価値観の変換を求めるいわゆる「教養」も重要なことである。これらの事に関しディスカッションを行い相互理解に努めた。

SDGsに関しては、深く議論はできなかったが、post ESDとして、今後ESDを推進する高等教育機関が何を目指すべきかという有用な議論が行えた。第10回目のHESDフォーラムとしては、次の10年に向けて、総括を含めた良い議論ができたと考えている。



活発に意見交換をする参加者の様子

講演会 北欧とバルトの国々に学ぶサステナブルな高等教育の在り方



行事内容

開催日時	2016年10月30日(日) 9:55～12:00 (終了しました)
主催者	北海道大学欧州ヘルシンキオフィス
会場	学術交流会館
言語: 日本語	対象: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要 持続可能な開発目標に貢献する高等教育の実施例としては、北欧(フィンランド、スウェーデン、ノルウェイ、デンマーク)とバルト(エストニア、ラトビア、リトアニア)の国々がよく知られています。本企画では、サステナビリティ・ウィークのテーマに関して、先進的な取り組みをしているこれらの国々の現状を紹介し、市民、学生、教職員への啓蒙を図ります。

＜北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2016 行事＞

講演会 北欧とバルトの国々に学ぶ

サステナブルな高等教育の在り方

2016年10月30日(日) 9:55～12:00

主催者: 北海道大学国際本部 欧州ヘルシンキオフィス 入場: 無料(北大HPから登録できます)

会場: 学術交流会館(札幌市北区北8西5北大正門横、札幌駅から徒歩7分)

言語: 日本語、一部英語(スライドは日本語併記) 対象: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生

持続可能な社会実現に貢献する高等教育の実施例としては、北欧(フィンランド、スウェーデン、ノルウェイ、デンマーク)とバルト(エストニア、ラトビア、リトアニア)の国々がよく知られています。本企画では、サステナブルな高等教育に関して、先進的な取り組みをしているこれらの国々の現状を紹介いたします。

10月30日(日) 9:55 開会

10:00-10:30 「ノルウェイの高等教育における持続可能な社会の実現のための試み」
松本 宏 (駐日ノルウェー王国大使館)

10:30-11:00 「From words to results. Swedish experiences with higher education for sustainable development (言葉から結果へ: 持続的発展のための高等教育に関するスウェーデンの経験)」 Mats Engström (駐日スウェーデン大使館)

11:00-11:30 「Sustainable development and education: a view from Estonia (エストニアから見た持続的発展と教育)」 Argo Kangro (駐日エストニア大使館)

11:30-12:00 「欧州全体の高等教育の進めと Finland の大学改革の歩み」 成田 吉弘 (北大欧州ヘルシンキオフィス)

スケジュール

9:55 開会

10:00 ～ 10:30

「ノルウェーの高等教育における持続可能な社会の実現のための試み」(駐日ノルウェー王国大使館 松本宏)

10:30 ～ 11:00

「言葉から結果へ:持続的発展のための高等教育に関するスウェーデンの経験」(駐日スウェーデン大使館 Mats Engström)

11:00 ～ 11:30

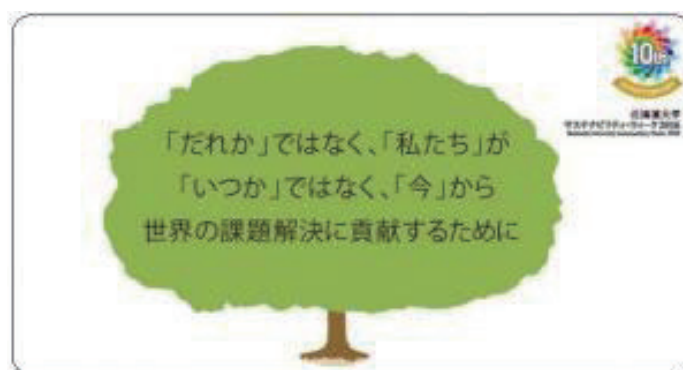
「エストニアから見た持続的発展と教育」(駐日エストニア共和国大使館 Argo Kangro)

11:30 ～ 12:00

「欧州全体の高等教育の流れとFinlandの大学改革の歩み」(北大欧州ヘルシンキオフィス 成田吉弘)

プログラム、詳細情報

「北欧とバルトの国々に学ぶサステナブルな高等教育の在り方」は、サステナビリティ・ウィーク10周年記念 国際シンポジウム参加企画です。プログラム詳細、最新情報はシンポジウム [特設サイト](#) にて公開しています。



- ・ SW10周年記念 国際シンポジウムウェブサイト: <http://sustain.oja.hokudai.ac.jp/sdgs/>.

北海道大学側の実施責任者	工学研究院 人間システムデザイン部門 特任教授／ヘルシンキオフィス 所長 成田吉弘
事前申し込み	※申し込み受付は終了しました。
参加費	無料
問い合わせ先	大学院工学研究院 人間システムデザイン部門 特任教授 成田吉弘 TEL: 011-706-6414 E-mail: ynarita[at]eng.hokudai.ac.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください。)

実施報告

2012月4月にフィンランドのヘルシンキに開設された北海道大学欧州ヘルシンキオフィスは、北欧を中心とした欧州全体の大学、研究機関との学術交流のリエゾン役を果たしています。また、FSP(First Step Program)や海外インターンシップなど、学生が欧州で海外体験をする際の手助けをしています。欧州は持続可能な社会実現に対する関心が深いですが、特に北欧はサステナブル社会の実現に貢献する教育でよく知られています。本企画では、サステナブルな高等教育に関して、先進的な取り組みをしている国々の現状を紹介する機会を設け、3人の講師を外部からお招きました。

はじめに、駐日ノルウェー王国大使館の松本宏氏より、ノルウェーの高等教育における持続可能な社会の実現のための試みを紹介しました。続いて、駐日スウェーデン大使館のMats Engström氏は、スウェーデンの高等教育において実施された先進的な試みと評価を詳細に話されました。バルト3国からの唯一の代表となったエストニアからは、Argo Kangro氏が、ノルウェー、スウェーデンとは異なる視点での持続的発展と教育の紹介をされました。最後に、欧州ヘルシンキオフィスを代表して、所長の成田が欧州全体の高等教育の流れを総括した後、とくにフィンランドの大学改革の歩みを紹介しました。

聴衆は約30名であり、講演後に時間を越えて、3人の外部講師へそれぞれ熱心な質問が投げかけられました。札幌で北欧やバルトの国々の高等教育、特に持続可能な社会実現に向けた試みを聞く機会はほとんど無いため、次年度以降もこうした企画の継続が期待されています。



エストニア大使館 アルゴ・カングロ氏による講演の様子



講演会終了後に4人の講師で記念撮影
(左から松本氏, Engström氏, 成田ヘルシンキ所長, Kangro氏)



学生ワークショップ 大学生の挑戦！世界の目標を自分とつなげる

行事内容

開催日時 2016年10月30日(日) 12:15～13:45 **(終了しました)**

主催者 北海道大学国際連携機構

共催 環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)

後援 一般社団法人サスティナビリティ・ダイアログ

会場 学術交流会館 1階ホール

言語: 日本語 **対象:** 一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要 世界の大きな流れの1つである「持続可能な開発目標(SDGs)」。これだけ聞くと、敷居が高く、自分ごととしてとらえることが難しく感じるかもしれませんが、視点を変えてみると、実は私たちとつながっていることが多く発見できます！3名の大学生の方からお話を伺ってヒントをみつけませんか？

セッションは、ランチを食べながら参加者の皆さんで交流できる時間にしたいと考えています。気軽にご参加ください。

この後は14時からの、学生ワークショップ2「学生目線で考えよう！よりよい世界の未来を担う高等教育どうあるべき？」も続けてご参加ください。(分科会4の詳細は、[こちら](#)をどうぞ！)

私たちにとって身近な存在である「教育」を通して、どのように世界の目標に貢献していけるかワークショップ形式で考えていきます。

学生ワークショップ 「大学生の挑戦！世界の目標を自分とつなげる」
 [12:15～13:45]
 「世界の目標」とは一体何でしょうか。「自分とつなげる」とは？3名の大学生の方からお話を伺って世界と自分とつなげるヒントをみつけませんか？
 ランチを食べながら皆さんで交流しましょう！
 (服装は自由な方にご参加ください)

学生の皆さん！
2016年10/30 (Sun.)
北海道大学 学術交流会館ロビーに集合!!

北海道大学サステナビリティ・ウィーク2016(主催：北海道大学)の10周年を記念して「持続可能な開発目標(SDGs)を自分とつなげる」をテーマに、学生目線で考えるワークショップを開催します。3名の大学生の方からお話を伺って世界と自分とつなげるヒントをみつけませんか？
 このワークショップは、学生目線で考えるワークショップを開催します。3名の大学生の方からお話を伺って世界と自分とつなげるヒントをみつけませんか？
 このワークショップは、学生目線で考えるワークショップを開催します。3名の大学生の方からお話を伺って世界と自分とつなげるヒントをみつけませんか？

お申込みは **こちらから** **どうぞ！**
 高校生、社会人の方も大歓迎です！
 参加費：無料(定員30名)

学生ワークショップ2 「学生目線で考えよう！よりよい世界の未来を担う高等教育どうあるべき？」
 [14:00～16:00]
 よりよい世界を創るために、皆さんと協力する大学が求められています。学生目線で考えるワークショップを開催します。3名の大学生の方からお話を伺って世界と自分とつなげるヒントをみつけませんか？
 このワークショップは、学生目線で考えるワークショップを開催します。3名の大学生の方からお話を伺って世界と自分とつなげるヒントをみつけませんか？

スケジュール

12:15 開会

12:20～12:30 情報提供：世界の目標「SDGs」について

12:30～13:00 事例紹介1「大学内でのSDGsの普及啓発について」

13:00～13:30 事例紹介2「実は身近な世界の目標」

13:30～13:45 参加者同士の交流会

13:45 閉会

講演者

「大学内でのSDGsの普及啓発について」

慶應義塾大学 総合政策学部 4年 和田 恵

SDGsを中心とした環境問題を専門とする慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス 蟹江憲史研究会では、実践プロジェクトとしてSDGsの普及啓発活動に取り組んでいます。例えばインスタグラム（SNS）を利用し、SDGsと自分の関心の関連を考えてもらう活動、またキャンパス内をSDGsの17要素でカバーする「キャンパスSDGs」プロジェクトなどです。特に「キャンパスSDGs」など、学生であること、そしてキャンパスを活かしたプロジェクトについてお話します。



「実は身近な世界の目標」

酪農学園大学 環境共生学類 2年 三品 未和（写真左）

東海大学札幌キャンパス 生物学部 3年 赤松 遼太郎（写真右）



大学の授業で学んだ「生物多様性」。

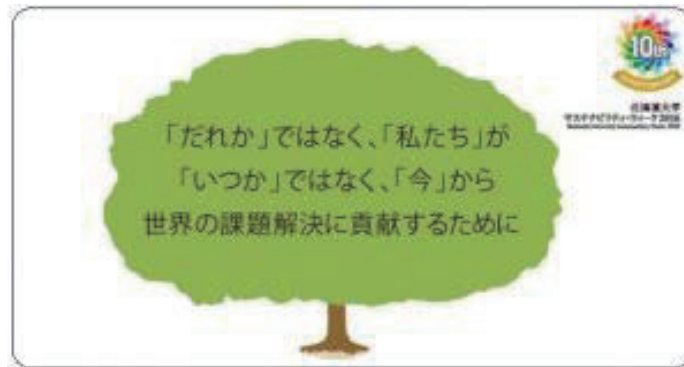
机の上では理解はできたけど、実世界ではどうなっているのか・・・学外の環境団体（NPO法人 ezorock）による環境保全活動に参加して、植物と土や水の関係性などを現場で五感から言葉の意味や概念を体験することで理解がより深まりました。ここでは私たちが行う活動内容の紹介と、それがSDGsのどの目標とつながっているのか紹介します。

司会者

環境省北海道環境パートナーシップオフィス 大崎美佳

プログラム、詳細情報

学生ワークショップ「大学生の挑戦！世界の目標を自分とつなげる」は、サステナビリティ・ウィーク10周年記念 国際シンポジウムの共催企画です。プログラム詳細、最新情報はシンポジウム [特設サイト](#) にて公開しています。



- ・ SW10周年記念 国際シンポジウムウェブサイト: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sdgs/>.

事前申し込み ※申し込み受付は終了しました。

参加費 無料（昼食が必要な場合は持込み要）

問い合わせ先 環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)

大崎美佳

TEL: 011-596-0921

FAX: 011-596-0931

E-mail: epoh-webadmin□epohok.jp（□をアットマークに変えて送信ください）

URL <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sdgs/jp/workshop1.html>

実施報告

遠い世界の出来事として捉えがちな「SDGs(持続可能な開発目標)」。本ワークショップでは、3名の学生を招き、SDGsを使った取り組みや自身の活動とSDGsの関わりを発表いただきました。

はじめにEPO北海道から、報告書「成長の限界(1972年)」等に触れ、昔から世界の資源は有限であり、持続可能な社会を作っていくことが必要と言われてきたことを踏まえ、SDGsの経緯や特徴について紹介させていただきました。

和田恵さん(慶応義塾大学 総合政策学部4年生)からは、所属する研究室での取り組みとして、SDGsを同世代の方へ普及啓発するためにSNSを活用した情報発信、シールにしたSDGs各目標を大学構内の関連箇所等に貼る「キャンパスSDGs」についてご紹介いただきました。世界の目標を自分事としてとらえてもらうための工夫を凝らした取り組みでした。

三品未和さん(酪農学園大学 環境共生学類2年生)、赤松遼太郎さん(東海大学札幌キャンパス 生物学部3年生)からは、学外の取り組みとして、お二人が所属するNPO法人ezorockの「大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト」とSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」や目標15「陸の豊かさを守ろう」との繋がりについてご紹介いただきました。また、登山者への長靴貸し出し等の活動一つ一つが、どのように自然保護とつながっているのか活動の効果を丁寧に説明いただきました。

発表いただいた内容は、グラフィックレコードをという手法を用いて、牧原ゆりえさん(一般社団法人サステイナビリティ・ダイアログ)、丸藤たつのりさん(ユースコミュニティデザイナー)にまとめていただきました。

参加者からは、「SDGsを身近に感じる事ができた」などの声を頂き、発表内容から多くの示唆を得る事ができたようです。その後参加者には、もう一つのワークショップ「学生目線で考えよう！よりよい世界の未来を担う高等教育どうあるべき？」へ続けて参加頂きました。



ワークショップの様子



学生発表の様子

学生ワークショップ

学生目線で考えよう！よりよい世界の未来を担う高等教育どうあるべき？



行事内容

開催日時 2016年10月30日(日) 14:00～16:00 (終了しました)

主催者 北海道大学国際連携機構

共催 環境省北海道環境パートナーシップオフィス(EPO北海道)

後援 一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ

会場 学術交流会館

言語: 日本語 対象: 大学生・院生・高校生

行事概要

こちらでは、参加者の皆さんとワークショップ形式で、「SDGsの貢献とは?」「世界とのつながりを持つにはどうしたらいいのか?」などを学生目線から教育について考え、シンポジウム全体に意見を発信します。

12:15～13:45の[ランチセッション](#)で学んだことをヒントに、参加者の皆さんと話し合いながら自分の想いを形にしていきませんか。もちろん、ここだけの参加も歓迎です。

「SDGsに関する授業があるといい」などの小さなことから、「SDGsに貢献する海外の取り組みを知るために留学制度があるといい」などの大きなことまで、世界の目標と関りを持つ教育になるよう、皆さんの声を届けましょう！

(ランチセッションの詳細は、[こちら](#)をどうぞ)

(※画像をクリックすると、詳細がご覧になれます)

スケジュール

14:00～14:05 開会

14:05～15:45 ワークショップ

(世界の目標と関わりを持つ教育について、参加者と一緒に考えます！)

15:45～16:00 まとめ

16:00 閉会

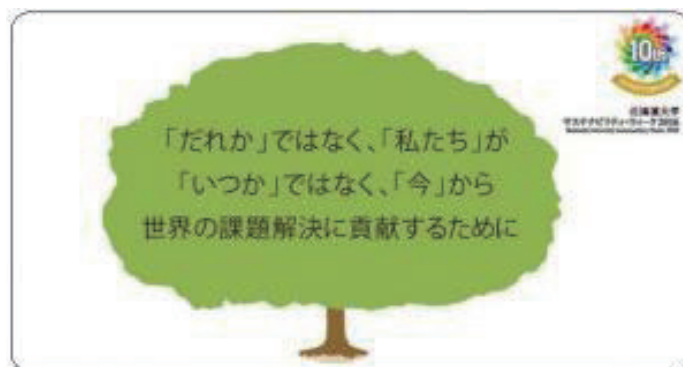
ファシリテーター

一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ 牧原ゆりえ

<http://www.sustainabilitydialogue.vision>

プログラム、詳細情報

学生ワークショップ「学生目線で考えよう！よりよい世界の未来を担う高等教育どうあるべき？」は、サステナビリティ・ウィーク10周年記念 国際シンポジウムの共催企画です。プログラム詳細、最新情報は[特設サイト](#)にて公開しています。



・ SW10周年記念 国際シンポジウムウェブサイト: <http://sustain.oja.hokudai.ac.jp/sdgs/>

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました。)

参加費 無料

問い合わせ先 環境省北海道パートナーシップオフィス(EPO北海道)

担当: 大崎

TEL: 011 -596 -0921 FAX: 011 -596-0931

E-mail: epoh-webadmin@epohok.jp (※@をアットマークに変えて送信ください)

URL <http://sustain.oja.hokudai.ac.jp/sdgs/jp/workshop2.html>

実施報告

本ワークショップでは、SDGsの達成に向け、よりよい地域づくりのために高等教育がどうあるべきかを参加者と一緒に考えました。まず、自分たちの暮らしや実現したい夢が、SDGsのどの目標と関わりがあるのか考え、話し合う時間をとって、SDGsをさらに身近なものにしました。

次に、牧原ゆりえさん（一般社団法人サスティナビリティ・ダイアログ）より「サステナビリティ」実現に向けた考え方の紹介があり、SDGsの達成に向けて高等教育がどうあるべきか参加者と意見交換をしました。高等教育に期待することとして参加者の方から「学内外の方とつながることができるオープンな場所」「無駄なことに挑戦できる」「学生結婚の推奨・支援」「シラバスを教員と一緒に作成すること」等、多彩な意見ができました。また、高等教育が学びの部分で恵まれた場所であるかを再認識した機会ともなりました。

最後に、大沼 進准教授（北海道大学大学院 文学研究科）が全体をとって「活発なディスカッションがされ貴重な意見が出された」とまとめました。

参加者からは、「多様な意見がでたけど高等教育に求めることは皆同じでおもしろい」等、普段は会えない人と意見交換する良い機会になったという声が多く寄せられました。

2つの分科会をとってEPO北海道は、今後も持続可能な地域づくりに向けSDGsの普及啓発を行うとともに、社会の次世代の担い手である学生の取り組みや意見が国内がいへ発信される場づくり等をしていきます。分科会を開催するにあたり関係者の皆さまには改めて心より感謝申し上げます。



ワークショップで議論する参加者の様子



参加者の集合写真

講演会 コンフリクトを超える知を生み出す学び

一分断社会における和解の可能性を探るー



行事内容

開催日時	2016年10月30日（日）14:00～16:00（受付開始：13:00）（終了しました）
主催者	大学院教育学研究院
共催	大学院教育学研究院 附属子ども発達臨床研究センター（予定）
会場	学術交流会館
言語	日本語（通訳なし）
対象	専門家・一般市民・大学生・院生
行事概要	排除型社会は分断と困り込みをもたらし、人々の間に、そして人々の中にコンフリクトを生じさせます。このコンフリクトを超えて、和解としての平和を構築するためにはどのような学びが必要なのでしょう？ 本分科会では、被害・加害の対立を超える対話的实践、紛争地域における演劇活動、そして貧困集積地域でのアート活動をとり上げ、この主題について検討します。また、このような活動がESDとして持つ意味についても検討したいと考えています。 プログラム 報告1『平和・和解とESD ～戦争加害国ドイツに見る和解のための対話～』 高雄綾子・フェリス女学院大学 報告2『占領下で「抵抗する芸術」ーパレスチナ、ジェニン自由劇場の事例から』 佐々木陽子・南山大学 報告3『釜ヶ崎で表現の場をつくりつづける喫茶店、ココルームで考えたこと』 上田假奈代・特定非営利法人ココルーム 指定討論『貧困を生きる者の支店からーフィリピンのフィールドワークの事例をもとに』 石岡丈昇・北海道大学教育学研究院 コーディネーター 宮崎隆志・北海道大学教育学研究院

詳細情報

「コンフリクトを超える知を生み出す学び」は、サステナビリティ・ウィーク10周年記念 国際シンポジウムの共催企画です。プログラム詳細、最新情報は「シンポジウム [特設サイト](#)」にて公開しています。

・ SW10周年記念 国際シンポジウムウェブサイト: <http://sustain.oja.hokudai.ac.jp/sdgs/>.



北海道大学側の実施責任者 教育学研究院 教授 宮崎隆志

事前申し込み 必要（※申し込み受付は終了しました。）

参加費 無料

問い合わせ先 教育学研究院

宮崎 隆志

TEL: 011-706-3495

E-mail: miyazaki[at]edu.hokudai.ac.jp

（※[at]を@に変えて送信ください）

実施報告

SDGsに取り組む際に必ず浮上するのが、利害対立に起因する葛藤です。この分科会では、葛藤そのものに焦点をあてて、和解や赦しとしての平和を構築するために必要な学びを3つの事例に即して検討しました(スタッフ3人・登壇者4人を除く参加者は45名、計52名)。

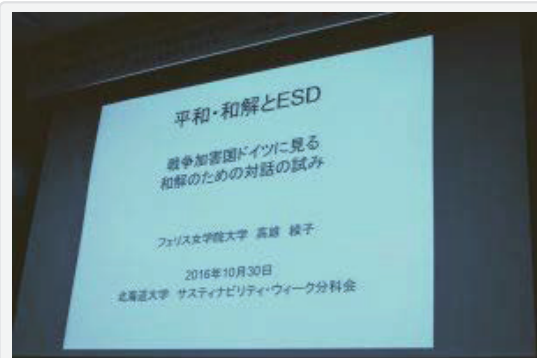
高雄先生(フェリス女学院大学)からは、ドイツとポーランドの市民レベルの和解の模索の実践、佐々木陽子先生(南山大学)からはイスラエルの占領下にあるパレスチナのジェニン自由劇場での表現活動、そして上田假奈代さん(ココローム代表)からは大阪の釜ヶ崎地区における表現による関わりづくりの活動を紹介して頂き、本学の石岡先生(教育学研究院)からコメントを述べて頂きました。

討議では、マクロなレベルで語られる紛争解決としての「和解」ではなく、個人としての当事者の間での「マイクロナ平和」に着目する必要性が確認されました。また、そのためには、第一に、分断社会の下で引き裂かれた状況にある個人の声を発することができ、その声が聴き取られる場を社会的に構築することが必要であること、第二に、それにもかかわらず、そのような場を組み込んだシステムが成立していない状況で、演劇のようなシミュレーションによって感情や関係性を取り戻す可能性に着目する必要があること、さらに第三に、関係を固定化させないで揺らし続ける活動が重要であることが確認されました。

環境正義や地球市民という概念は、コンフリクトを解消するものとして語られることがありますが、この分科会ではそれらを平和をもたらす「青い鳥」として扱うのではなく、むしろコンフリクトのもつリアリティから出発し、その矛盾と不断に対峙しながら問いを深める学びが重要であることが明らかにされました。教育学研究院ならびに子ども発達臨床研究センターでは、このような課題をさらに多くの実践者とともに探求していくつもりです。



討議の様子



高雄綾子准教授による講演時のスライド



講演会 文化遺産とSDGs－失われた好機？－

行事内容

開催日時 2016年10月30日（14:00～16:00）（終了しました）

主催者 応用倫理研究教育センター

会場 学術交流会館

言語: 英語 **対象:** 専門家・大学生・院生・高校生

行事概要 2015年9月25日、国連は「持続可能な開発のための目標」(SDGs)を始動させました。これは2030年までに「貧困に終止符を打ち、地球を守り、すべての人の繁栄を確保する」ための行動目標を「持続可能な開発のための新アジェンダ」として示したものです。

その11番目の目標が「持続可能な都市及び人間居住」です。これには「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）な都市を実現する」という副題が付いています。11.4では「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する」という取り組みを定めています。SDGsの中で「遺産」や「分化」に具体的に言及した箇所は、他にはありません。

「人間、地球、繁栄、平和、パートナーシップ」というコンセプトを中心とするイニシアチブが、1つの目標の下に遺産保護を取り込むのに、都市をターゲットとするのはどこか奇妙にも思えます。何と言っても、世界で自然遺産が見つかる都市というのは皆無に近いのですから！実際のところ、世界の都市人口が増加し続ける一方で、有形の文化遺産のほとんどが、この発展し増え続けるコンクリート街の外に存在しています。エコノミスト以外の人にとっては、「すべての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長を享受できる世界」で、この目標を達成できる、と考えるのは、現実の世界の原理に即していないように思えます。

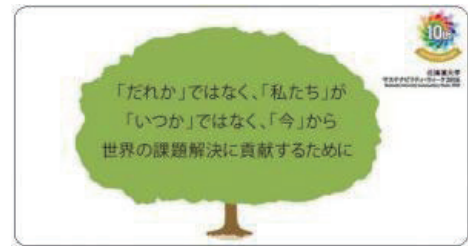
本質的には、これらの目標は人類の長きに渡る存続を実現するのに不可欠な、まさに賞賛すべきアジェンダを定めたものです。これらの目標は、暗に世界を脅かしているものの真因が、概して人類であることを認識しています。では、これらの目標が、人類と地球上の他の生物とを分け隔てる唯一のもの、すなわち「人間の文化」を無視しているように思えるのは、少なくともほとんど注目していないのは、一体なぜなのでしょう？

本講演では、ニューキャッスル大学のピーター・ストーン教授を招き、文化遺産・文化財の保護を通じた持続可能な社会の構築に向けた課題と展望についての講演を行います。

プログラム詳細、最新情報

講演会「文化遺産とSDGsー失われた好機？ー」は、サステナビリティ・ウィーク10周年記念 国際シンポジウムの共催企画です。プログラム詳細、最新情報はシンポジウム特設サイトに公開しています。

- ・ SW10周年記念 国際シンポジウムウェブサイト: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sdgs/>



北海道大学側の実施責任者 応用倫理研究教育センター 准教授 眞嶋俊造

事前申し込み ※申し込み受付は終了しました。

参加費 無料

問い合わせ先 応用倫理研究教育センター

TEL: 011-706-4088

E-mail: [caep\[at\]let.hokudai.ac.jp](mailto:caep@let.hokudai.ac.jp) (※[at]をアットマークに変えて送信ください)

実施報告

本行事では、文化遺産保護の研究や教育における世界的権威であり、サステナビリティの倫理についての研究の第一人者である英ニューカッスル大学のピーター・ストーン教授に”Cultural heritage and the Sustainable Development Goals. A missed opportunity?”というタイトルの講演を行って頂きました。

SDGsの11-4にも掲げられているように、文化遺産・文化財の保護というのは現代社会において喫緊の課題であり、また持続可能な社会を構築するために必要不可欠であることが指摘されました。また、文化遺産・文化財の保護を通じた持続可能な社会の構築に向けた課題と展望についての議論を深めました。

ストーン教授は大学教員になる前にイングリッシュ・ヘリテージ財団に勤務し、ハドリアヌスの壁の管理責任者であった実務経験を踏まえた議論は、教育の重要性を強調するものでした。ストーン教授がこれまで行った、英国国防省より依頼されたイラク戦争における遺跡の損壊・破壊に関する調査、またユネスコにおけるリビア等での武力紛争における遺跡の略奪状況などの調査についての報告は、当事者でしか知ることができないであろう非常に興味深い、また貴重な内容でした。

歴史家であるストーン教授が講演において強調された言葉は以下の通りです。「私たちが歴史を学ぶのは現代を理解するためであり、また未来を創るためである」。文化遺産や文化財を保護しそれらの歴史を学ぶことの重要性を論じることは、人性の涵養という持続可能な社会の構築について考えるという、まさに本シンポジウムの趣旨に合致するものでした。



ストーン教授による講演の様子



会場の様子

第2回 北大ー理研ー産総研「触媒研究」合同シンポジウム ～持続可能社会実現に向けたキャタリストインフォマティクス～



行事内容

開催日時	2016年10月31日(月) 13:30～18:00(開場 12:30) (終了しました)
主催者	触媒科学研究所 産業技術総合研究所 理化学研究所
会場	学術交流会館
言語: 英語(通訳無し)	対象: 専門家・大学生・院生
行事概要	ものづくりの基盤を支えている「触媒研究」は、我が国の強みであり、今後さらにその強みに磨きをかけて行くことが求められている。 日本の触媒研究を牽引する研究組織である北海道大学・触媒科学研究所、理化学研究所・環境資源科学研究センターおよび産業技術総合研究所・触媒化学融合研究センター・人工知能研究センターは、国際競争に打ち勝つ強靱なイノベーションシステムの構築に向け、触媒化学における研究成果の最大化を達成するべく連携を開始した。 今回、「持続可能社会実現に向けたキャタリストインフォマティクス」の創成を目指して、第二回合同シンポジウムを北海道大学で開催する。 《《 懇親会 》》 ・【日時】2016年10月31日(月) 18:30～20:30 ・【場所】アパホテル TKP札幌駅北口 EXCELLENT レストラン サンレモ http://www.apahotel.com/hotel/hokkaido/09_tkp-sapporoeki-kitaguchi/ ・【会費】5,000円 ・【申込】下記の事前申し込みから、お申し込みください。

【ポスター】

(※画像をクリックすると、詳細がご覧になれます。)



北海道大学側
の実施責任者

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました。)

参加費 シンポジウム参加無料

問い合わせ先 触媒科学研究所 合同シンポジウム事務局

TEL: 011-706-9381

E-mail: HRA-Joint-Sympo[at]cat.hokudai.ac.jp

(※[at]をアットマークに変えて送信ください)

実施報告

持続可能社会実現に向けた、キャタリストインフォマティクスの創成を目指している北海道大学触媒科学研究所、産業技術総合研究所、理化学研究所が主催となり、第2回北大-理研-産総研「触媒研究」合同シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、昨年、理化学研究所を企画者として、第1回理研-北大-産総研「触媒研究」合同シンポジウム一知の発掘と革新触媒創造をめざすキャタリストインフォマティクスが東京にて開催され、キックオフも兼ねて各主催機関を代表する研究者が今後の触媒研究のあり方について講演を行いました。東京開催ということもあり、企業や官公庁からの出席者も多くみられました。

本年は、北海道大学触媒科学研究所が企画者となり、ドイツのFHIやアメリカのSUNCATから講演者を招いて国際シンポジウムへと発展させ、キャタリストインフォマティクス創成のためのより具体的な研究について若手を含めて7名の講演者が講演を行いました。来場者は約120名におよび、大変有意義なシンポジウムだったとの感想が多く寄せられました。

来年には産業技術総合研究所が企画者となり、更なるキャタリストインフォマティクスの発展を目指して第3回シンポジウムが関東にて開催される予定です。



講演の様子



講演者・参加者の集合写真

サステナブルキャンパス国際シンポジウム2016

持続可能な大学と地域の発展のためのキャンパスの役割

ーサステナビリティの概念を取り込んだキャンパスマスタープランとはー



行事内容

開催日時 2016年11月1日(火) 基調講演 10:00～14:30 (受付開始 9:00)/ 意見交換会 18:00～20:00
(終了しました)

主催者 サステナブルキャンパス推進本部、施設部

後援 北海道、札幌市、日本建築学会北海道支部

会場 学術交流会館(基調講演)、レストラン「エルム」(意見交換会)

言語: 英語(逐次通訳あり)及び日本語 **対象:** 専門家・一般市民・大学生・院生

行事概要 持続可能な社会構築のための大学の役割として、その教育研究によって産み出される知財、学生や研究者のような人財を社会へ還流させることと、大学キャンパスをひとつの社会の縮図と見立て、ハード・ソフトに関わらず社会実験の場として活用し、得られた知見を基に社会実装の道筋を付けることがあります。

これらの役割を果たすキャンパスの、物理的空間およびその機能を計画したものがキャンパスマスタープランであり、大学運営に伴う環境負荷を低減させ、さらにキャンパスで生活する大学構成員のwell-beingを支える物理的空間及びその機能を計画したものでもあります。

サステナブルキャンパスをどのように捉え、キャンパスマスタープランへどのように描ききっていくのか、国内外からの招待講演者による基調講演およびワークショップによる実践を通して理解を深めます。



意見交換会 場所・お申し込みについて

- 場所: ファカルティハウス「えんれいそう」内レストラン「エルム」
- 事前申し込み: メールまたは下記の申込サイトより要申込。10/28 17:00まで。

E-mail: osc[at]osc.hokudai.ac.jp ([at]を@に変えて送信してください)

北海道大学側の実施責任者 サステイナブルキャンパス推進本部 特任准教授・プロジェクトマネージャー 横山隆

事前申し込み ※申し込み受付は終了しました。

参加費 無料

問い合わせ先 サステイナブルキャンパス推進本部

横山 隆

TEL: 011-706-3661

E-mail: osc[at]osc.hokudai.ac.jp

(※[at]をアットマークに変えて送信ください)

URL <http://www.osc.hokudai.ac.jp/>

実施報告

本シンポジウムは、今年で6回目の開催です。今年は「持続可能な大学と地域の発展のためのキャンパスの役割 - サステナビリティの概念を取り込んだキャンパスマスタープランとは」をテーマに掲げました。

サステナビリティの概念について共通理解を深める方策として、キャンパスの機能及び物理的空間形成を計画するキャンパスマスタープランに焦点を当て、サステナビリティの概念をキャンパスマスタープランに取り込む過程とサステナブルキャンパス実現への道程を議論しました。

山口総長より、ビデオメッセージ「キャンパスマスタープランについて議論して欲しいこと」の中で、「北海道大学近未来戦略150」で世界の課題解決に貢献する北海道大学となることを宣言したことや、地球の未来と北海道大学の未来とを同時に考えながら力を注いで欲しい、とのお考えを頂きました。

基調講演には66名の参加があり、ミラノ工科大からエウジェニオ・モレロ助教、九州大学から鶴崎直木 准教授、名古屋大学から恒川和久 准教授、大阪大学から吉岡聡司 准教授をお招きして、先進的なキャンパスマスタープランをまとめた事例を紹介して頂きました。

続いて行なったワークショップでは、36名が5つのグループに分かれ、「北大キャンパスの重要課題を選定」して「北大の新キャンパスマスタープランに書くべきことを決定」し、「北大キャンパスの重要課題を解決する方策の提案」を具体的（計画実現のプロセス、方策、体制、キャンパスを活性化させるための仕組み、資金等）にまとめました。5つの発表では活発に質問も出ており、他大学の教職員、キャンパス計画に携わる民間企業社員の方々と本学の教職員及び学生が協働する、大変貴重な機会となりました。



講演者・スタッフの集合写真



ワークショップの様子

札幌国税局長 特別講演会「税務行政の現状と国税庁の取組」



行事内容

開催日時	2016年11月2日(水) 10:30～12:00 (終了しました)
主催者	経済学部
会場	学術交流会館 講堂
言語: 日本語	対象: 一般市民・大学生・院生
行事概要	税は、国や地方公共団体の財政支出の中心的な財源です。日本の社会保障制度や教育制度などが持続可能であるためには、税収の安定した確保が不可欠です。 消費税率の引き上げを平成31年10月まで延期した今、持続的な社会保障制度や教育制度などを支えるためにはどのような税制のあり方が求められているのでしょうか。 経済学部では、札幌国税局長の山崎浩二氏をお迎えして、我が国における財政及び税務行政の現状と、国税庁の取組や国税職員の仕事について講演していただきます。 沢山の大学生、市民の参加をお待ちしています。

経済学部主催 特別講演会

**税務行政の現状と
国税庁の取組**

**講師：札幌国税局長
山崎浩二氏**

**日時：2016年11月2日(水)
10:30～12:00**

**場所：北海道大学
学術交流会館 講堂**

学部生・院生・一般どなたでも参加自由です

問い合わせ先：山崎浩二氏 Tel. 011-708-3026 E-mail: yamazaki@nhts.hokkaido.go.jp

北海道大学側の実施責任者	大学院経済学研究科 教授 小山光一
事前申し込み	不要
参加費	無料
問い合わせ先	北海道大学大学院経済学研究科 小山 光一 TEL: 011-706-3996 E-mail: koyama[at]econ.hokudai.ac.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください)
URL	http://www.econ.hokudai.ac.jp/

実施報告

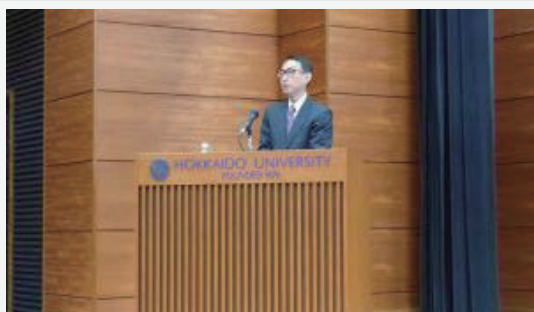
経済学部では、札幌国税局長の山崎浩二氏による特別講演会を11月2日(水)午前10時30分より学術交流会館・講堂において開催しました。特別講演会のタイトルは「税務行政の現状と国税庁の取組」で、査察調査や納税環境の整備などの問題とともに、国際化という環境変化に対しどのように対応しているかという税務行政の現状について講演して頂きました。

講演者である山崎氏は、国税庁に勤務し、名古屋と大阪の国税局の査察部長、国税庁の個人課税課長を務めてきました。

講演では、まず、査察調査の現状についてビデオが放映され理解を深めることができました。次に、税務行政が国際的な取引にどのように対応しているかという問題について説明しました。さらに、確実な税金の納付と納税環境の整備の問題などについて述べました。

講演会には212名という多数の出席者があり、経済学部の学生と大学院生ばかりでなく、北海道大学の他学部や他大学の学生、一般の方の参加もありました。当日、参加者にアンケートを配付したところ、参加者の多くから山崎氏の講演が非常に有益であった旨の回答がありました。

国民が税に関心を持ち、税の理解を通して社会に参加し、納税を通して真剣に社会を支えていこうとする意識を持つことが重要です。このような講演会が、学生の皆さんに現実の問題に関心を抱かせ、真剣に社会の在り方を考えてもらうよい機会になることを期待します。



講演の様子



熱心に講演に耳を傾ける聴衆の様子

保健科学研究院公開講座 ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ



行事内容

開催日時	2016年11月3日（木）13:00～16:00（受付開始 12:00）（終了しました）
主催者	大学院保健科学研究院
会場	大学院保健科学研究院 E棟1階 多目的室
言語:日本語（通訳なし）	対象:一般市民
行事概要	保健科学研究院の公開講座は、「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと、3名の講師陣が専門分野の紹介を分かりやすく行います。講演予定については、次のとおりです。 第1限目は、「老化を画像検査で見る」と題して、加藤教授が老化に伴う症状として、腰痛や関節痛から鬱症状、癌など画像検査でどこまで診断できるか紹介いたします。 第2限目は、「高齢者の運動習慣によるヘルスプロモーション」と題し、前島教授が高齢者における運動習慣は運動機能の低下に加えて認知症の予防に対しても有効であることから、運動による広範な予防的効果の可能性についてご紹介します。 第3限目は、「伝統社会で暮らす人々のライフスタイルと健康:異文化フィールドワークの方法と事例」と題して、山内教授が開発途上国の農村部など伝統的な生活を色濃く残している社会で暮らす人々の健康について、生活に密着したフィールド調査によって明らかにしていき、その方法論と事例を紹介します。

【ポスター】

(※画像をクリックすると、詳細がご覧になれます。)



北海道大学側 大学院保健科学研究院 教授 惠淑萍
の実施責任者

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました)

参加費 無料

問い合わせ先 北海道大学大学院 保健科学研究院

医学系事務部 保健科学研究院 事務課

E-mail: shomu[at]hs.hokudai.ac.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください)

URL <https://www.hs.hokudai.ac.jp/archives/9803/>

実施報告

保健科学研究院の公開講座は、「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと、3名の講師陣が専門分野の紹介を行い、75名の参加がありました。

第1限目は、加藤千恵次 教授が「老化を画像検査で見る」と題して、老化に伴う症状として、腰痛や関節痛から鬱症状、癌など画像検査でどこまで診断できるかについて講演しました。

第2限目は、前島 洋 教授が「高齢者の運動習慣によるヘルスプロモーション」と題して、高齢者における運動習慣は運動機能の低下に加えて認知症の予防に対しても有効であることから、運動による広範な予防的効果の可能性について講演しました。

第3限目は、山内太郎 教授が「伝統社会で暮らす人々のライフスタイルと健康～異文化フィールドワークの方法と事例～」と題して、開発途上国の農村部など伝統的な生活を色濃く残している社会で暮らす人々の健康について、生活に密着したフィールド調査によって明らかにしていく方法論と事例について講演しました。

講演者は、サステナビリティ・ウィーク2016のキャッチ・コピーである「『だれか』ではなく、『私たち』が『いつか』ではなく、『今』から世界の課題解決に貢献するために」から、「持続可能な社会づくりに向けた“世界の交流プラットフォーム”」をキーワードとして、保健科学の視点から講演しました。

参加者からは概ね好評を博し、さまざまな質問があり、各講師はわかりやすく丁寧に解説を行いました。今後も毎年、その時の時代を反映するようなテーマや興味を持って参加いただけるようなテーマを設定して、同じ時期に公開講座を開催していく予定です。



山内太郎教授による講演の様子



質疑応答の様子

国際シンポジウム 東アジアにおける大学と先住民族との協業のあり方を探る

ー先住民文化遺産と考古学：台湾原住民とアイヌー



行事内容

開催日時	2016年11月3日（木） 9:30～17:30（終了しました）
主催者	アイヌ・先住民研究センター
共催	文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究「稲作と中国文明－総合稲作文明学の新構築－」
後援	観光学高等研究センター
会場	学術交流会館（第1会議室）
言語	日本語・英語（逐次通訳あり）
対象	専門家・一般市民・大学生・院生・高校生
行事概要	本シンポジウムでは、先住民族の文化と伝統を共に有する北海道と台湾を対比することから、アジアにおける先住民族と考古学の協業のあり方を考えます。 文化遺産の保全と管理の取り組みを手掛かりに、地域社会との連携や、先住民族の権利、知的財産権についても検討します。植民地経験の多様性を考える上でもアジア以外の北米や北欧の研究者を対話者に迎えて、より幅広い世界的な視野から意見交換を行います。 コーディネーター 加藤 博文 北海道大学アイヌ先住民研究センター・教授 発表者 吉開 将人 北海道大学文学研究科・教授 劉 益昌 中央研究院歴史語言研究所・研究員 陳 有貝 国立台湾大学人類学系・副教授 青野 友哉 伊達市噴火湾文化研究所・学芸員 陳 瑪玲 国立台湾大学人類学系・教授 鄭 安晞 国立台中教育大学区域与社会發展学系・助理教授

ポスター

Hokkaido University Sustainable Week 2016

CRS International Symposium 2016

北海道大学・アイヌ・先住民研究センター・国際シンポジウム 2016

**東アジアにおける大学と
先住民族との
協業のあり方を探る**

先住民文化遺産と考古学：台湾先住民とアイヌ

2016年11月3日 木
9:30-17:30 (入場9:20)

北海道大学学術交流会館第1会議室

【コーディネーター】
加藤 博文 北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授

【発表者】
吉岡 利人 北海道大学大学院経済学 教授
劉 益昌 中央研究院民族学研究所 教授
陳 有良 成功大學人類学系 教授
青野 友雄 京都府立大学文化研究部 学芸員
陳 瑞珍 成功大學人類学系 教授
劉 安媛 成功大學国文学系 教授

【参加費】
参加費：無料

【申し込み】
以下のウェブサイトよりお申込みください。
<https://huc.hokudai.ac.jp/sym16/>



【主催】
北海道大学学術交流会館
国際シンポジウム「都市と中国文明
—総合型人文科学の創生—」

【協賛】
北海道大学学術交流会館

北海道大学アイヌ・先住民研究センター・国際シンポジウム 2016

東アジアにおける大学と先住民族との協業のあり方を探る

先住民文化遺産と考古学：台湾先住民とアイヌ

■プログラム

8:30-9:30	開場・受付
9:30-9:45	開会の挨拶・シンポジウム趣意説明 (コーディネーター 加藤 博文 北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授)
9:45-10:30	北海道・台湾・南中国 東アジアの「学問」と民族記憶 (司会) 吉岡 利人 北海道大学大学院経済学 教授
10:30-11:25	台湾原住民考古学と民族史の構築—回顧と展望 (司会) 劉 益昌 中央研究院民族学研究所 教授 成功大學人類学系 教授 成功大學国文学系 教授
11:25-12:30	昼 食
12:30-13:25	台湾の巨石遺構から見た考古学研究と歴史学との関係 (司会) 陳 有良 成功大學人類学系 教授
13:25-14:20	「異文化上の接触の歴史」を共有する —アイヌ・先住民・東洋史学— (司会) 青野 友雄 京都府立大学文化研究部 学芸員
14:20-14:25	昼 食
14:25-15:30	先人の先達の遺徳と土地で考古学調査を行うということ (司会) 陳 瑞珍 成功大學人類学系 教授
15:30-16:25	史料とフィールドと伝説 —伝説・伝説と伝説— (司会) 劉 安媛 成功大學国文学系 教授
16:25-16:30	昼 食
16:30-17:20	パネルディスカッション (コーディネーター 加藤 博文 北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授)
17:20-17:30	閉 幕

Hokkaido University Sustainable Week 2016

CRS International Symposium 2016

北海道大学側
の実施責任者

アイヌ・先住民研究センター 教授 加藤博文

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました。)

参加費 無料

問い合わせ先 アイヌ・先住民研究センター

加藤 博文

TEL: 011-706-2859

E-mail: ainu[at]let.hokudai.ac.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください)

URL <http://www.cais.hokudai.ac.jp>

実施報告

先住民族の文化遺産の保存活用に考古学がどのように取り組むことができるか、また地域社会と連携した有効な取り組みの事例の国際比較をテーマとして議論を行いました。過去のシンポジウムでは、北米や北欧との比較を行ってききましたが、今年度は特に東アジアに焦点を絞り、先住民族との協業に取り組んでいる台湾と日本との事例比較を行いました。

台湾からの報告は、国立台湾大学、国立成功大学、国立台中教育大学の研究者による台湾での取り組みの報告でした。シンポジウムでは、最初に北大と台湾側から東日本と台湾の概説的な報告を皮切りに、具体的な地域での取り組み事例についての報告を行いました。特に台湾の事例では、政権交代後の新たな原住民族の政策展開の中で、考古学の調査を通じた原住民族の文化遺産の確認と評価が原住民族の権利獲得に繋がる具体的な事例の報告があり、台湾で進みつつある新たな動きを学ぶ良い機会となりました。北海道側の取り組みについては、伊達市の事例を報告いただくことで日本側の新たな動きについての情報共有も可能となりました。

また、2日目には平取町へ場所を移し、アイヌ文化行政や文化振興に取り組む自治体職員や地域住民を交えて討論を行うことができました。

内容的に身近で、交流頻度の高い東アジアでの事例の比較であったことを考えると、次年度以降は、通用の一般向けのアナウンスに加えて授業の一環としての開催など、より学生や留学生を巻き込んだ取り組みにするなどの工夫を行っていく必要があると考えています。



発表者の集合写真



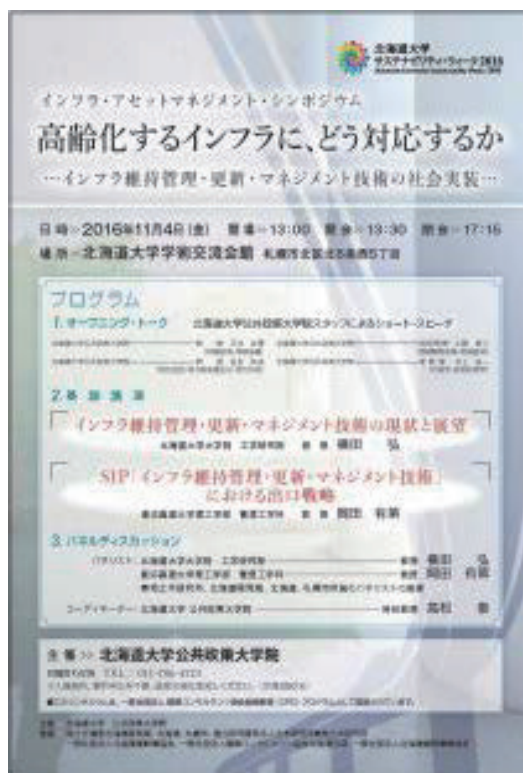
講演会場の様子

シンポジウム 高齢化するインフラに、どう対応するか ーインフラ維持管理・更新・マネジメント技術の社会実装ー



行事内容

開催日時	2016年11月4日(金) 13:30～17:15 (受付開始 13:00) (終了しました)
主催者	公共政策大学院
後援	国土交通省北海道開発局、北海道、札幌市、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所、一般社団法人北海道建設業協会、一般社団法人建設コンサルタンツ協会北海道支部、一般社団法人北海道塗装事業協会
会場	学術交流会館 講堂
言語: 日本語	対象: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生
行事概要	私たちの生活や社会活動を支える橋梁・舗装・トンネルといった社会インフラは、その多くが高度経済成長期に建設されたもので、近年、大事故が頻発するなど、老朽化の問題が指摘されています。 このシンポジウムでは、公共政策大学院スタッフによるオープニング・トークの後、慶応義塾大学管理工学科の岡田有策教授、北海道大学工学研究院の横田弘教授より基調講演をいただき、後半は、寒地土木研究所・北海道開発局・北海道庁・札幌市からもパネリストを迎えて、老朽化するインフラを今後どのようにマネジメントしていくか議論を行います。



北海道大学側 公共政策大学院 特任教授 高松泰
の実施責任者

事前申し込み	不要。当日、直接会場にお越しください。(定員250名)
参加費	無料
問い合わせ先	北海道大学公共政策大学院 田中 みどり TEL: 011-706-4723 E-mail: office[at]hops.hokudai.ac.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください)
URL	http://www.hops.hokudai.ac.jp/

実施報告

公共政策大学院では、11月4日(金)、学術交流会館にてインフラ・アセットマネジメント・シンポジウム「高齢化するインフラに、どう対応するか …インフラ維持管理・更新・マネジメント技術の社会実装…」を開催しました。

冒頭オープニング・トークの部では、本大学院の石井吉春 教授(地域経済)、笠松拓史 教授(地方自治・地方行財政)、小磯修二 特任教授(地域開発政策)、村上裕一 准教授(行政学・技術政策学)が、各観点からの問題提起を中心に、ショートスピーチを行いました。

基調講演の部では、北海道大学工学研究院の横田弘 教授と慶應義塾大学理工学部の岡田有策 教授から講演をいただきました。横田教授からは「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術の現状と展望」というタイトルで、先駆的研究の動向や海外での実践例を、岡田教授からは北海道の地域特性にひきよせながら「SIP『インフラ維持管理・更新・マネジメント技術』における出口戦略」についてお話しいただきました。

シンポジウムの後半では、講演講師の2名のほか、行政機関等からもパネリストを迎え、高松 泰 特任教授をコーディネータとするパネルディスカッションを行いました。北海道開発局建設部 道路維持課長の坂場 武彦 氏、北海道建設部 建設政策局維持担当課長の若山 浩 氏、札幌建設局土木部 維持担当部長の渡辺和俊 氏、国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 寒地保全技術研究グループ長の熊谷政行 氏から最近の取り組みを紹介いただいた後、アセットマネジメント技術の社会実装について多角的な議論が交わされました。

会場には、自治体、道内の土木建設関係の民間企業、コンサルタント、一般市民の方々等、160名ほどにおいでいただきました。今後は、室蘭工業大学、北見工業大学の研究チームと協力し、各地でのワークショップ、研究開発にあたってまいります。



オープニングトークの様子



パネルディスカッションの様子

北海道大学側 文学研究科 教授 瀬名波栄潤
の実施責任者

事前申し込み ※申し込み受付は終了しました。

参加費 無料

問い合わせ先 北海道大学国際部国際交流課

石黒 公美

TEL: 011-706-8053

E-mail: jryugaku[at]oia.hokudai.ac.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください)

実施報告

国際連携機構は、昨年に引き続き、留学希望者向けセミナーを実施しました。参加大学は、インドネシア・ガジャマダ大学、ベトナム・ベトナム国家大学ホーチミン校、フィンランド・東フィンランド大学、本学の4大学でした。学生の目線での情報提供を目的に、発表者を北海道大学短期留学プログラム(HUSTEP)で交換留学している留学生等に依頼しました。

イベントでは、各大学がサステナブル・ディベロプメント(SD)についてどのような教育を行い、学生が授業や授業外でSDにどのように関わっているかを発表してもらい、それぞれの特徴的な取り組みが紹介されました。

本イベントは本年度9度目の開催ですが、参加した学生達に実施したアンケートでも「SDについて、また世界の大学がSDにどう取り組んでいるかを詳細に知れて良かった」、「英語でプレゼンを聞く良い機会になった」、「社会の諸事情に目を向けるモチベーションになった」などの回答がみられました。また、発表した留学生等も自らの大学を直接アピールできる貴重な機会ととらえて十分な準備を重ね、当日も満足感を抱いていたようでした。参加学生のアンケートでは、来年度に講演してほしい大学の希望についても聴取することができたので、可能な限り希望を取り入れていきたいと考えています。



学生による発表の様子



会場の様子

歯学研究科企画第8弾 お口の健康と歯科医療 その2

ー患者サイドに立った知識の浸透ー



行事内容

開催日時	2016年11月6日（日）9:30～13:00（受付開始 9:00）（終了しました）
主催者	歯学研究科
会場	歯学部講堂
言語: 日本語	対象: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生
行事概要	生活の質を左右する要素の一つに、食事があります。本企画は、この「食事」を楽しむために必要なお口の健康と、問題が発生した場合の対処法・治療法について紹介することを目的とします。 内容的には一般の方でも十分理解できるわかりやすい日本語で、かつ、話上手な講師による講演会を開催いたします。好評であれば今後、シリーズ化して継続的に提供していこうと考えています。みなさま奮ってご参加ください。
北海道大学側の実施責任者	歯学研究科 講師 有馬太郎
事前申し込み	（※申し込み受付は終了しました。）
参加費	無料
問い合わせ先	北海道大学 大学院歯学研究科 有馬 太郎 TEL: 011-706-4275 FAX: 011-706-4276 E-mail: tar[at]den.hokudai.ac.jp（※[at]をアットマークに変えて送信ください）

実施報告

歯学研究科では、平成28年11月6日(土)9時30分から13時00分まで歯学部講堂において、市民公開特別講座として「お口の健康と歯科医療 その2-患者サイドに立った知識の浸透」を開催しました。本講座はサステナビリティ・ウィークとの共催であり、歯学研究科としては8つめの企画でした。

同講座では、食事を楽しくするために必要なお口の健康と、問題が発生した場合の対処法・治療法について紹介することを目的として、一般の方でも十分理解できるわかりやすい言葉で3名の講師が講演を行いました。

大学院歯学研究科長・歯学部長横山敦郎教授の開会挨拶の後、大学院歯学研究科有馬講師から「唾液と摂食嚥下のメカニズム」について、北海道歯科衛生士会・札幌北楡病院歯科衛生士原田晴子氏から「オーダーメイドのブラッシング」について、最後に北海道大学病院後藤まりえ助教から「義歯を中心とした補綴治療の現状と義歯に関する留意点(清掃や食事の仕方)」についての講演が行われました。

また、同講座は道民カレッジ連携講座としての開催でもありました。前日から雪が降り、当日も雪が残るといふ悪天候となりましたが、当日受付の方も含めて32名の方が参加されました。

本研究科では、今後も研究成果の地域社会への還元の一環として、道民カレッジ等に参加し、市民公開特別講座を企画・実施する予定です。またサステナビリティ・ウィークにも「持続的に」話題を提供してまいります。



開会挨拶をする横山敦郎 歯学研究科長



会場の様子

グリーンランドをめぐる「音楽」・「冒険」・「サイエンス」

ー北極域の持続可能な未来にむけてー



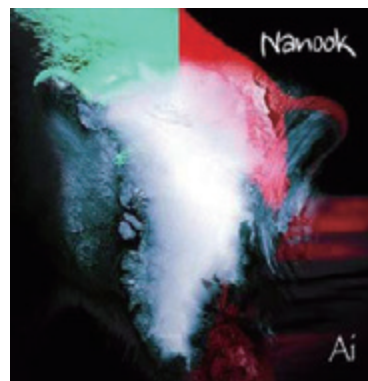
行事内容

開催日時	2016年11月7日(月) 15:00～18:00 (受付開始 14:00) (終了しました)
主催者	低温科学研究所、北極域研究センター、THE MUSIC PLANT、ArCS北極域研究推進プロジェクト
会場	北海道大学 総合博物館
言語: 日本語・英語 (逐次通訳あり)	対象: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要 北極域研究における日本の研究拠点、低温科学研究所・北極域研究センターが、自然・社会環境の著しい変化に直面するグリーンランドをテーマに開催するイベントです。

グリーンランドで氷河・氷床、海洋、社会科学などに取り組む研究者のミニセミナー、グリーンランドの人気音楽グループ [Nanook](#) によるコンサート、北海道在住の冒険家・[立本明広](#) 氏と [奈良豆](#) 氏による現地の映像を交えたトークなど、ユニークで多彩なプログラムを通じて、「持続可能な社会」に向けた大学の貢献について市民のみなさまと考えます。

7月にリニューアルオープンした北海道大学の [総合博物館](#) を会場に、グリーンランドの自然・社会環境・文化についてこの機会に学んでみませんか？そして、「日本にいる私たちがいまできること」について一緒に考えましょう。



Nanook: グリーンランドで随一の人気を誇るバンドです。中心メンバーのクリスチャン・フレデリック兄弟が北大を訪れて演奏します。



立本明広・奈良亘：北海道を拠点に活動する冒険家。二人が友人と行った2回のグリーンランド遠征が美しい写真集として出版されています。



プログラムが入った**ポスター**ができました。ぜひご覧ください。

北海道大学側 の実施責任者	低温科学研究所 准教授 杉山 慎
事前申し込み	不要（直接会場へお越し下さい）
参加費	無料
問い合わせ先	低温科学研究所 杉山 慎 TEL: 011-706-7441 E-mail: sugishin[at]lowtem.hokudai.ac.jp （※[at]をアットマークに変えて送信ください）

実施報告

日本の北極研究をリードする北大の取り組みを一般市民・学生に伝えるため、グリーンランドに焦点をあてた本イベントを実施しました。本学からは、低温科学研究所の雪氷研究者、スラブ・ユーラシア研究センターの社会科学研究者がそれぞれグリーンランドの自然と社会の概要を紹介。その後、北海道を拠点とする冒険家によるトーク、グリーンランド随一の人気を誇るバンド「ナヌーク」による演奏が行われました。最後はナヌークのメンバー2人を交えたパネルディスカッションを実施し、グリーンランドのサステナブルな将来について意見を交換しました。

会場を埋めた約100名の参加者は、大学生から年配まで様々。科学・冒険・音楽という3つのキーワードそれぞれに惹かれて、幅広い範囲の方々が集まりました。各講演に関して熱心な質問が飛び、通訳を交えたパネルディスカッションの一問一答に大変良い反応がありました。休憩時間にはナヌークとイベント参加者との交流もあり、普段はなじみが薄いグリーンランド・北極・極域について身近に感じてもらえたと考えています。

7月に北極展示が新規オープンしたタイミングでもあり、今回のイベントを北海道大学博物館で開催することになりました。シロクマのはく製や、グリーンランドを含む北極の写真を展示したコーナーはイベント内容にぴったりで、休憩時間を有効に使って展示を見てもらうことができました。北極に力を入れる北大の良いアピールになったと感じます。今後も極域での研究活動を市民に伝えるために、研究以外の要素を取り入れた行事の開催を検討していきたいと考えています。



杉山慎教授によるオープニングの様子



参加者との活発な質疑応答の様子



グリーンランドの音楽グループ「Nanook」によるトークの様子

JICA PARTNER 国際協力人材セミナー in 北海道

—国際協力の場で働きたい方、専門性を活かしたい方へ—



行事内容

開催日時 2016年11月12日(土) 10:00～17:00 (受付開始 9:30) **(終了しました)**

主催者 国際協力機構 (JICA)

共催 北海道大学 国際部国際連携課

会場 北海道大学 高等教育推進機構

言語: 日本語 **対象:** 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要 JICAでは、“国際協力の世界で仕事をしたい”と考えている社会人や大学生・大学院生などを対象に、『国際協力人材セミナー』を開催しています。

JICAをはじめ、開発コンサルタントや国際機関などの国際協力実施団体から講師を招き、実際の仕事内容やキャリアパス、求められる資質や能力について解説頂きます。

1日で国際協力業界の様々な仕事・キャリアについて知ることができる貴重な機会です！
個別のキャリア相談なども実施予定です。



(※画像をクリックすると、詳細がご覧になれます。)

タイムスケジュール

10:00～ 受付

10:30～11:20 基調講演/国際協力の全体像

講師) JICA国際協力人材部

11:20～11:30 ～休憩10分～

11:30～12:30 JICA公募型専門家セッション

講師) JICA国際協力人材部、公募型専門家

12:30～13:00 ワンポイント相談／フリートーク

相談員) JICA国際協力人材部、JICA公募型専門家 他

13:00～13:15 ～休憩15分～

13:15～14:30 NGO/NPOセッション @1階会場

・NPO法人「飛んでけ！車いす」の会

国際基幹セッション @2階会場

・外務省 国際機関人事センター

・国際連合工業開発機関(UNIDO)

14:30～14:45 ～休憩15分～

14:45～16:00 ワンポイント相談／フリートーク @1階会場

・NPO法人「飛んでけ！車いす」の会

・外務省 国際機関人事センター

・国際連合工業開発機関(UNIDO)

開発コンサルタントセッション @2階会場

・一般社団法人 海外コンサルタント協会(EGFA)

・株式会社パデコ

・日本工営株式会社

16:00～16:10 閉会

16:10～16:15 ～休憩5分～

16:15～17:00 ワンポイント相談／フリートーク @2階会場

・閉会后、同会場にて開発コンサルタントセッション講師によるワンポイント相談／フリートーク実施

JICA PARTNERとは？

* PARTNERのサービス詳細は[こちら](http://partner.jica.go.jp/)。(ウェブサイト: <http://partner.jica.go.jp/>)



北海道大学側の実施責任者 国際部国際連携課 国際協力マネージャー 榎本宏

事前申し込み 必要(※お申込み受付は終了しました。)

参加費 無料

問い合わせ先 国際協力機構(JICA)

国際協力人材部 PARTNER事務局

TEL: 03-5226-6785

E-mail: jicahrp@jica.go.jp

(※[at]をアットマークに変えて送信ください)

URL http://partner.jica.go.jp/resource/newsemi/jinzai/20161112_hokkaido.html

実施報告

国際協力に関心がある、または国際協力の現場で活躍を目指す人材に対し国際協力業界におけるキャリアの情報を提供し、国際協力活動への参加を促すことを目的とし、「国際協力人材セミナーin北海道」を実施致しました。63名の方に参加いただき、参加者のほぼ全員が北海道内からの参加であり、学生・大学院生が大半を占めました。

プログラムは、「国際協力の全体像」として国際協力業界の動向について説明し、続いて以下の国際協力の各アクター(組織・仕事)の紹介およびそれぞれそれぞれのアクターの活動事例・キャリア形成等について説明しました。その後、各アクターの経験者との意見交換を実施しました。

紹介した各アクター（組織・仕事）:

- JICA: JICA職員、JICA専門家
- NGO: NGOを支援するネットワーク型NGOの相談員、「飛んでけ！車いす」の会 理事
- 開発コンサルタント: 開発コンサルタント ECFA、パデコ、国際航業
- 国際機関: 外務省国際機関人事センター、国連工業開発機関(UNIDO)。

また、事前申し込み制の個別キャリア相談を実施し、13名が参加しました。参加者に実施したアンケートでは、計52名のうち50名より「非常に満足および満足」との回答を頂き、大変満足度の高い(96%)セミナーを提供することができました。

参加者からのコメント(抜粋):

- 今回初めてこのようなセミナーに参加し、国際協力に関わる組織や手段に様々な種類があることを知った。
- 普段聴くことができない話を聴き、貴重な時間を過ごすことができた。今後も定期的の実施してほしい。
- 学生としてもっと経験を積むためインターンに参加するという選択肢を知った。また、幅広い知識を習得するという、自分の課題を確認できた。
- 国際機関について、敷居が高いのは当然だが目指す道もあるのだなと思った。目指すには今から必要な力を身につける努力が必要なのもわかった。UNIDOのことは知らなかったが、お話を聞いて非常に興味を持った。
- 開発コンサルタントについて今回初めて話を聞き、セクター別にも多くの分野があることを知り、今まで持っていたイメージが変わった。今後のキャリア形成の一選択として考える機会となった。
- 個別キャリア相談の開催もあり普段札幌ではチャンスが少ないのでとてもいい機会だった。

JICAとしても参加者の熱意に触れ、引き続きより多くの北海道の人材に対して、国際協力業界におけるキャリアに関する情報を提供したいと考えております。



開発コンサルタントセッションの様子



熱心に聴き入る参加者の様子

行事内容

開催日時	2016年11月16日(水) (終了しました)
主催者	オウル大学(フィンランド)
会場	オウル大学(フィンランド)
言語: 英語	対象:
行事概要	※行事変更のお知らせ※ 年度当初より、フィンランドの大学とサステナビリティに関わる議論の場を設定しようと、ジョイントシンポジウムという形で調整を行ってまいりましたが、諸事情により、今年度はフィンランドの大学が単独主催することとなりました。 ただし、当初案内の通り、同日、同開催場所で北極域に関するリサーチセッションが行われます。本学からも研究者を派遣予定です。 北極域に関する最新の研究知見を共有する場となりますので、参加を希望される方は、是非会場へお越し下さい。 
北海道大学側の実施責任者	国際部国際交流課 課長 清水和子
問い合わせ先	国際部国際交流課 TEL: 011-706-8146 E-mail: si1[at]oia.hokudai.ac.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください)
URL	http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/2016/jp/news/notice-of-change/



第31回 ポテト杯争奪 全日本学生英語弁論大会

行事内容

開催日時 2016年11月20日(日) 12:00～18:30 (開場 11:30) (終了しました)

主催者 北海道大学英語研究会

会場 学術交流会館

言語: 英語 **対象:** 一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要

「ポテト杯」とは？

今年で31回目の開催となる「ポテト杯」は、北海道で開催される唯一の英語弁論の全国大会です。

日本全国から出場者を募集し、原稿審査と音声審査により選ばれた10名が、11月20日の本選で英語スピーチの日本一を競います。スピーカーは、8分間の英語スピーチを行い、審査員による質疑応答と合わせた得点で順位を決めます。

スピーチのトピックは自由で、性やアイデンティティ、SNS、エネルギー問題など、さまざまな社会問題について取り上げます。



「ポテト杯」の見所

今後の社会形成を担う学生が、多岐にわたる社会問題について自ら考え、共有し、ディスカッションで考えを深めていくことは、「持続可能な社会」を作るための重要な取り組みです。共通言語として用いられることが多い英語で発信することで、留学生を含む海外の学生とも情報共有し、同年代の学生が英語でプレゼンテーションする姿を見せることで、将来、国際的に活躍できる人材を北海道大学から輩出することを目指します。

オーディエンスにとっては、今後の英語学習や英語のプレゼンテーションについて、スピーカーに直接話を聞くことのできる機会ですので、特に英語スピーチを磨きたい高校生・大学生には大変好評頂いています。

【今年のテーマ】Chronicle ～Set the Clock Forward～

今年の大会コンセプトは、『Chronicle ～Set the Clock Forward～』です。「年代記」、「時計の針を進める」などといった意味を持つ「Chronicle(クロニクル)」という言葉に、未来に向けての行動を考えるという意味を込めて決めました。

スケジュール

11:30 開場

12:00～12:15 開会式

12:15～13:35 スピーチ セッション1(1～5)

13:35～13:55 休憩

13:55～15:15 スピーチ セッション2(6～10)

15:15～16:15 休憩／判定時間

16:15～16:40 閉会式

16:40～18:30 交流会

大会公式Facebookページ

最新情報は、Facebookページよりご確認ください。

<https://www.facebook.com/potatocup2016/>

北海道大学側の実施責任者 大会実行委員長／工学部3年 山元 爽

事前申し込み (※申し込み受付は終了しました。)

参加費 無料

問い合わせ先 北海道大学英語研究会

大会実行委員長 山元 爽

E-mail: 31st.potatocup.official[at]gmail.com

(※[at]をアットマークに変えて送信ください)

実施報告

持続可能な社会の実現のために、社会問題やアイデンティティに関する問題など、様々な問題の解決法を熱心に考える学生を招き、英語プレゼンテーション大会「ポテト杯争奪英語弁論大会」を開催しました。プレゼンターである10名の出場者は、全国の大学生約60名の応募の中から音声と原稿による審査を勝ち抜き、本大会への出場を決めました。

本大会は、北海道大学の学生サークル「英語研究会」が毎年開催しており、今年で31回目となります。入賞者には、ジャガイモ10kgが贈呈されますが、特に道外の大学からの参加者には毎年、好評をいただいています。

今年は、関西大学(2名)、高崎経済大学(2名)、慶応義塾大学、立教大学、青山学院大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学(各1名)が参加しました。優勝は早稲田大学の小島瑠莉さん、準優勝は京都大学の樋田祐一さん、第3位は高崎経済大学の本間義人さんでした。

プレゼンテーションのテーマは、障がい者に対するいじめ、リーダーの在り方、両親の離婚に悩む子供の問題、認知症の本質的問題、病気との向き合い方、ほめることの大切さ、大学生の進路の選び方など、幅広い分野の発表がありました。

参加者・観客は北海道大学の学生に留まらず、他大学の学生や卒業生など、様々な方に参加していただきました。大会後に行ったアンケートでは、特に学生の多くから「高いレベルの英語プレゼンテーションを聞くことができ、英語学習への意欲が高まった」という声や、「社会問題に関する関心が高まった」などという声をいただきました。多くの学生が刺激を受け、グローバル社会へ意見を発信することの大切さを感じたようでした。

北海道大学英語研究会では、更なるグローバル社会への関心、意欲を掻き立てるため、北大生だけではなく他大学の学生と交流を図りながら、また審査員を含む多くの社会人との交流も大切にし、これからもこのような場を提供していこうと思います。

(※それぞれの発表の様子は、YouTubeにて動画で公開しています。下記URLより閲覧可能です。)



北大生を代表して発表した工学部2年生 奥田
晃崇さん



優勝した早稲田大学 小島瑠莉さん



発表者の集合写真

発表動画 [スピーチセッション1]

- 重岡さくら(関西大学) <https://youtu.be/HYO5LKicoas>
タイトル: “The Importance of Sitting Next to Each Other”
- 吉永立平(慶應義塾大学) <https://youtu.be/btSDVQEh8SU>
タイトル: “Collective Genius”
- 小島匡人(高崎経済大学) https://youtu.be/L_eKhbOI96g
タイトル: “Responsible Love for Life”
- 本間義人様(高崎経済大学) (第3位) <https://youtu.be/kvuhkFdUAok>
タイトル: “Different Roads under the Same Sky”
- 中村瑛里佳(立教大学) <https://youtu.be/DniHt7UJYOE>
タイトル: “Courage to Acknowledge”

発表動画 [スピーチセッション2]

- 安達美紗季(青山学院大学) <https://youtu.be/a-IcQ8TWRxw>
タイトル: ” ‘Real’ Dementia”
- 樋田祐一(京都大学) (準優勝) <https://youtu.be/zR2HjQt2yZc>
タイトル: “Putting Children First”
- 小島瑠莉(早稲田大学) (優勝) <https://youtu.be/vkEbDa0H0As>
タイトル: “Hope for the Best, Prepare for the Worst”
- 仲居瑛美(関西大学) <https://youtu.be/P1nzvIIXMM>
タイトル: “You are great”
- 奥田晃崇(北海道大学) <https://youtu.be/6BffZXMJ9fU>
タイトル: “For Whom? For What?”

CLARK THEATER (クラークシアター)2016



行事内容

開催日時 2016年11月26日(土)～11月27日(日) (終了しました)

主催者 北大映画館プロジェクト

会場 北海道大学クラーク会館(講堂)

言語: 日本語・英語(同時通訳あり) **対象**: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生

行事概要 北海道大学に期間限定の映画館、CLARK THEATER(クラークシアター)を開催します。CLARK THEATERでは、“映像・映画を通じたコミュニケーションの場の創造”を目指し、様々な映画をお楽しみいただけます。

サステナビリティ・ウィークへは、2009年度から今年で7年目の参加となりました。

CLARK THEATERでは、他の映画館とは少し違った、新しい出会いがあります。お客様とお客様同士の出会いだけでなく、大学と地域の方々との出会い、親しみのない作品やジャンルとの出会いなどです。

普段見ることのない作品に出会うことでお客様が奥深い映像の世界へと興味を持っていたらこれほど嬉しいことはありません。そして、大学の中に映画館があればどのようなことが出来るのか、私たちと一緒に想像を膨らませてみてください。



北海道大学側 の実施責任者	北大映画館プロジェクト／法学部3年 土橋 一葉
事前申し込み	不要（直接会場へお越し下さい）
参加費	詳細はクラークシアターのウェブサイトにてご確認ください。
問い合わせ先	北大映画館プロジェクト E-mail: info[at]clarktheater.jp (※[at]をアットマークに変えて送信ください)
URL	http://www.clarktheater.jp/ct2016/

実施報告

北海道大学クラーク会館の講堂を使用して、学生や市民に開放した期間限定映画館「CLARK THEATER 2016」を開催しました。当イベントは2006年に始まり、今年で11周年になります。北海道大学に常設映画館を作ることを目標に、その過程の一環として年に一度「CLARK THEATER」を開催しています。北大生を中心とする学生が運営し、作品の選定から自分たちで行いました。

今年は例年よりも開催日数を減らし、一つひとつの作品選定にこだわることで、普段であればなかなか見ることのできない様々なジャンルの作品を上映しました。ジャンルは、アニメ作品からドキュメンタリー作品まで様々でしたが、幅広い年代の方に楽しんでいただきました。

2016年11月に公開された映画「溺れるナイフ」で、独特の十代の少女を描き大注目を集めている若手監督の一人、山戸結希 監督には北大まで足を運んでいただき、トークショーを行いました。来場者にはトークショーを通じて、ただ映画を見るだけではわからないような、映画製作の背景も楽しんでいただきました。

2日間を通じて、来場者には、映画作品そのものとの出会いはもちろん、そうした作品と出会える北大映画館プロジェクトがあることの魅力も伝えることができた実感しました。

来年度以降も、多くの方に北大構内で開催する「CLARK THEATER」へ足を運んでいただき、ここでしか味わえない映画体験を提供することによって、映像作品との出会いや発見の喜びを感じていただけるよう邁進していきます。



上映前の会場の様子



沢山の方に足を運んで頂いた、当日の受付の様子

GiFT2016 ～Global Issues Forum for Tomorrow～

世界の課題解決に向けたフォーラム



行事内容

開催日時	2016年11月27日(日) 20:00～22:00 (終了しました)
主催者	北海道大学 サステナビリティ・ウィーク事務局(国際連携機構内)
会場	インターネット上
言語: 英語	対象: 大学生・院生・高校生

行事概要

GiFTとは？

「GiFT(ギフト)」とは、「Global Issues Forum for Tomorrow」の頭文字であり、世界の高校生・大学生とインターネットを通して意見を交換する約2時間のフォーラムです。

2011年に開始し、6年目を迎えるGiFT2016は、北海道大学で勉強する学生が中心となり、議題を提供する2名と、テーマに基づいてディスカッションを盛り上げる5名の学生、世界の高校生・大学生と一緒に意見交換します。

2016年11月27日(日)、夜8時からの放送に合わせてYouTube Liveでフォーラムの様子を生配信し、北海道大学の学生が世界の視聴者とインターネット・チャットにてディスカッションします。世界各国の学生と共に、世界の課題解決について考え、熱く議論をしてみませんか。



今年のテーマ

地球温暖化の課題を解決するには、高校生・大学生には何ができるのでしょうか？今年には以下の2つのテーマに基づき、議論します。

1. How can we reduce our garbage? (ゴミはどうしたら減らせるか)
2. What kind of actions are you taking to respond to the global warming? (地球温暖化に対しどのような行動を取っているか)

フォーラムの詳細・最新情報

GiFT2016の詳細、最新情報は[公式ウェブサイト](http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/)および[facebookページ](https://www.facebook.com/SW.Hokkaido.u/)にて公開しています。ディスカッションの話題を提供し、当日フォーラムを盛り上げてくれる学生の紹介や、テーマの詳細などが載っていますので是非チェックしてみてください。

* GiFT公式ウェブサイト: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/>

* Facebookページ: <https://www.facebook.com/SW.Hokkaido.u/>



過去のGiFTの様子

GiFTウェブサイトおよびYouTubeにて、過去のGiFTのアーカイブ動画を公開しています。



* GiFT公式ウェブサイト: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/01-archives/>

* YouTube: <https://www.youtube.com/user/hokkaidouniv/playlists>

北海道大学側の実施責任者	サステナビリティ・ウィーク実行委員会実行委員長 上田 一郎（北海道大学理事・副学長）
事前申し込み	不要
参加費	無料

問い合わせ先 北海道大学

サステナビリティ・ウィーク事務局(国際連携機構内)

TEL: 011-706-8031

E-mail: sw1[at]oia.hokudai.ac.jp (※[at]はアットマークに変えて送信ください)

Facebook: <http://www.facebook.com/SW.Hokkaido.u>

URL <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/>

実施報告

2016年11月27日(日)、北海道大学の学生と世界の高校生・大学生が世界の課題解決についてインターネット上で意見交換を行うフォーラム「GiFT(ギフト)」を開催し、世界25カ国から228名が参加しました。

GiFTは、世界のどこに居てもサステナビリティ・ウィークに参加できるよう開発された、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を駆使して提供する企画です。国際連携機構に設置したスタジオで行うパネルディスカッションの様子を日本時間の20:00~22:00に、YouTube Live(インターネット生中継)を通じて配信し、世界の若者がチャット機能を活用してパネリストと、もしくは参加者同士とで意見を交換しました。

配信スタジオには、北海道大学で学ぶ7人の留学生(中国、ヨルダン、インド、インドネシア、ネパール、フィリピン、スウェーデン)が集まり、司会役、議題紹介役、パネリスト役、そしてチャットを通じて送られてくる意見を紹介する役を交代で担いながら約2時間、2つの議題について英語で議論を進めました。パネリストと参加者は、各国や地域の状況や取り組みを紹介し合いながら、それぞれの場所で学生としてできることについてアイデアを活発に交換しました。

開催6回目を向かえたGiFTは、年に1回それも数時間開催する形態であるにもかかわらず、世界各地から毎年参加するリピーターが生まれつつあります。今年の参加地域は、パネリストの出身国はもちろんのこと、アメリカ、ブラジル、カンボジア、オランダ、ナイジェリア、ロシア、イタリア、ウズベキスタンなど過去最多となる世界25カ国・地域となりました。番組後半では、参加者から「北海道大学で学びたい」「北海道大学最高！」というコメントが幾つも送られ、本学の留学生が学修環境の良さをアピールする場面もありました。

GiFTは、北海道大学『近未来戦略150』で掲げた「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」というビジョンを体現し、各地に住む次世代の担い手に学び合う機会を提供することにとどまらず、北海道大学の存在と価値を世界へ知らせる有効なメディアに成長しつつあるのです。

* アーカイブ動画: <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/>



司会を務めた学生の様子



活発に意見交換する司会学生



生配信の様子



ライブチャットで世界各国から寄せられたコメントを紹介する司会学生の様子

HULT PRIZE@Hokkaido University

～学生による国際社会問題ビジネスコンペティション～



行事内容

開催日時	2016年12月3日(土) (終了しました)
主催者	HULT PRIZE委員会
会場	理学部5号館 大講堂
言語:英語(通訳無し)・日本語(一部のみ)	対象:大学生・院生

行事概要 ハルトプライズは、“HULT PRIZE”という、ビル・クリントン財団(CGI)が後援し、国際的に急速に評価を高めている ビジネス・スクールである Hult International Business School が実施している、社会起業に関する国際学生ビジネスコンペティションです。

大会では、世界中の学生がチームを組み、世界の差し迫る問題を解決するアイデアを出し合い、どれだけ社会に大きいインパクトを残せるかを競います。

具体的には、100万ドルを元手に、テーマとなる世界の問題を解決するような企業を考えます。さらに、最終的な世界決勝の勝者チームには、実際に100万ドルの資金が与えられ、考えたアイデアで起業をすることが出来ます。

本大会では、大学予選として北海道大学での学内予選を行います。

ハルトプライズの歴史

ハルトプライズは、スウェーデンの起業家バーティル・ハルトの支援とアメリカ前大統領ビル・クリントンの後援によって2010年に始まりました。そして、今や150カ国以上の国から何千人もの出場者が、ハルトプライズに参加しています。

ハルトプライズ@北海道大学大会について

大大会は、北海道大学大学院生3名からなる「2015年度実行委員会」によって2015年12月に初めて北大で開催しました。学部生、修士、博士課程の学生からなる計60名、17チームが出場し、優勝チームはボストンに勝ち進みました。

今年度は、2016年9月末に、ハルトプライズ本部(米国)の審査を通過し、北海道大学医学部3年 村上武志のもとに「2016年度ハルトプライズ実行委員会」が発足しました。

今年のテーマ

チームは、毎年ビル・クリントン元大統領が発表するテーマに沿って競います。

2017年度のテーマは、「2022年までに1000万人に及ぶ難民の人権と尊厳を取り戻せるような持続可能で拡大可能な社会企業をたてられるか?」です。

ウェブサイト

HULT PRIZE@HU 公式ウェブサイト:

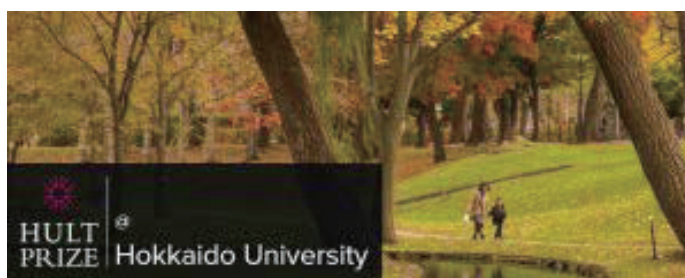
<http://hultprizeat.com/hokkaido>

Facebook :

<https://www.facebook.com/Lets-Engage-in-HULT-1713724258859501/>

Hult Prize Official HP :

<http://www.hultprize.org/>



北海道大学側の実施責任者	キャンパスディレクター／北海道大学医学部医学科3年 村上 武志
事前申し込み	メールにて受付
参加費	無料
問い合わせ先	HULT PRIZE委員会 E-mail: hultprizehokkaido[at]gmail.com (※[at]をアットマークに変えて送信ください)
URL	http://www.hultprizeat.com/hokkaido

実施報告

HULT PRIZEは社会企業に関する国際学生ビジネスコンペティションであり、スウェーデンの起業家パーティー・ハルトの支援とアメリカ前大統領のビルクリントンの後援によって2010年から開始されたコンペティションです。今では150以上の国から何千人もの出場者がHULT PRIZEに参加しています。

本大会では、世界中の学生がチームを組んで、世界に差し迫る問題を解決するアイデアでどれだけ社会に大きいインパクトを残せるかを競います。具体的には、参加者は100万ドルを元手にしてテーマとなる世界問題を解決するようなビジネス案を考え、プレゼンを通して競い合います。今年のテーマは「2022年までに1000万人に及ぶ難民の人権と尊厳を取り戻せるような持続可能で拡大可能な社会企業を立てられるか」です。

参加者は、北海道大学の学生15チーム、56人(日本人学生22人、留学生34人)と教職員・審査員・オブザーバー12人でした。各チームのプレゼンを通して、審査員による公平な審査の結果、2017年3月にサンフランシスコかボストンで行われる地区大会に進む1チームを選抜しました。また、今回多くの学生が各専門分野の知識を持ち寄り、英語で意見交換をし、難民について深く考える機会を持てたことは、将来世界をまたにかけける北大生にとって有意義な時間となりました。

今後、HULT PRIZE実行委員会は、2017年3月の地区大会に向けて、優勝チームのプレゼンの改善支援、費用に係る準備などを行っていきます。

(※大会の詳細、最新情報は[Facebookページ](https://www.facebook.com/hultprize)にて公開しています。URL: <https://goo.gl/1peJNU>)



参加者の集合写真



当日の受付の様子



優勝チーム表彰の様子

一般公開フォーラム「シティズンシップと市民運動：LGBTをとりまく日本の事情」



行事内容

開催日時	2016年12月18日(日) 13:30～16:30 (受付開始 13:00) (終了しました)
主催者	応用倫理研究教育センター
共催	法学研究科附属 高等法政教育研究センター
会場	学術交流会館(講堂)
言語: 日本語	対象: 専門家・一般市民・大学生・院生・高校生
行事概要	性少数者の社会・公的認知の拡充方策の一つとして、市民運動を検証・展望します。 世界的な流れである「同性パートナーシップの公的認証制度(同性愛者等に、異性愛者間の婚姻制度に同等もしくは近い権利・機会を与える制度)」の波は日本にも押し寄せ、札幌市でも要望書が市民団体によって提出されました。 今後、性少数者が市民権を享受するためには、行政や性多数者の理解を得るための様々な活動を有意義に行わなければなりません。市民運動はその一つです。しかし、問題をはらんでいないわけでもありません。 本フォーラムでは、社会学者、法学者、LGBTアクティヴィストなどの登壇者を用意し、市民運動の限界と可能性について考えます。 登壇者 講演者 野宮 太志郎 (中央大学文学部教授) 社会学・市民運動。グローバルに、国境を越えて展開する反戦平和運動、人権環境運動、援助活動、ボランティア活動など、市民活動の研究をしている。 尾崎 一郎 (北海道大学法学研究科教授) 法社会学。本学教員として、ジェンダー・セクシュアリティ関連研究教育で文学研究科応用倫理研究教育センターに協力している。 鈴木 賢 (明治大学法学部教授・北海道大学名誉教授) 札幌でLGBTの当事者運動に長年従事。中国法、台湾法専攻。近時は台湾の同性婚運動をテーマのひとつにしている。

司会

瀬名波 栄潤（北海道大学大学院文学研究科教授・同応用倫理研究教育センター員）



北海道大学側の実施責任者 文学研究科 教授 瀬名波栄潤

事前申し込み 不要（直接会場へお越し下さい）

参加費 無料

問い合わせ先 応用倫理研究教育センター

TEL: 011-706-4088

E-mail: caep[at]let.hokudai.ac.jp

（※[at]をアットマークに変えて送信ください）

URL <http://ethics.let.hokudai.ac.jp/event/index.html#forum16>

実施報告

本フォーラムでは、性的少数者(LGBT)の社会・公的認知の拡充方策の一つとして、「シティズンシップ」と「市民運動」を検証・展望しました。

2015年はLGBTムーブメント飛躍の年でした。まず、5月、カトリック教徒の多いアイルランドで、同性婚の法制化が国民投票で決まりました。翌月、アメリカ合衆国連邦最高裁は、同性婚は「法の平等な保護」を定めた合衆国憲法の下での権利であるとして、同性婚を禁止する州法を違憲と判断、同性婚は合法となりました。特筆すべきは、(2014年末の国際オリンピック委員会での決議を受け)、2015年8月にオリンピック憲章根本原則6条に「性的指向」への差別撤廃が盛り込まれたことでした。

また、日本には、海外では10年以上も前に巻き起こっていた「同性パートナーシップの公的認証制度(同性愛者等に、異性愛者間の婚姻制度に同等もしくは近い権利・機会を与える制度)」制定の波が、押し寄せました。昨年来、渋谷区、世田谷区、宝塚市、那覇市、伊賀市などが制度の検討を終えて、すでに導入しています。民間企業も新しいサービスを模索し始めています。そして、教育行政も新たな局面を迎え、文部科学省は性的少数者へ配慮を求める通知を全国の小中高校へ送るなどしています。

今年6月6日、ドメスティック・パートナー札幌が「同性カップルを含む『同性パートナーシップの公的認証』に関する要望書」を秋元克広市長に提出しました。市長は要綱による制度創設を検討することを明らかにしました。が、今後、性的少数者が「シティズンシップ」を享受するには、行政や性多数者の理解を得るための様々な活動や「市民運動」を有意義に行わなければなりません。しかしながら、表現の自由を許容する現代社会にあって、それを制限する流れがあるのも事実です。

本フォーラムでは、LGBTをとりまく日本の諸状況を踏まえ、「シティズンシップ」と「市民運動」の可能性と課題について、3名の講師の発表とともに、来場者を交えて考え、多様な意見を交換しました。新田孝彦理事と山本文彦文学研究科長にも、それぞれ開会式と閉会式でご挨拶いただきました。最後には、本フォーラムが持続可能な「私たちの街づくり」を探る新たな一歩となることを確認しました。来場者は約80名程度でしたが、当日は北海道新聞、読売新聞、共同通信から取材を受け記事を掲載してもらいました。本フォーラムの情報発信価値は高かったと自負しています。



フォーラムの様子



講演者・関係者の集合写真